中原遺跡群 Ⅳ

1995

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

中原遺跡群 Ⅳ

1995

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1．赤城山と中原遺跡群(南より)

2．中原遺跡群Ⅳ　A・B区全景

3．中原遺跡群Ⅳ　C区全景(北より)

4．中原遺跡群Ⅳ　出土の土器群

序

群馬県前橋市は、関東平野の北西に位置し、坂東太郎で名高い利根川が市街地を貫流する、水と緑に恵まれた人口28万余を擁する県都であります。その歴史は古く、古代より上野国の政治経済文化の中心地として発展してきました。

特に、中原遺跡群が所在する前橋市東部の荒砥地区は、名峰赤城山の南麓に広がる自然、気候条件に恵まれた場所で、今からおよそ22,000年前から人々が住んでいた痕跡が確認される、遺跡の宝庫と言える所です。

この地区に、前橋市工業団地造成組合が大規模な工業団地を造成することとなり、埋蔵文化財の確認調査の結果、開発予定地の多くが遺跡地であることが判明しました。開発か保存かの協議により、現状保存不可能な場所を平成4年度から発掘調査を実施することになりました。

本年度の調査では、平安時代の水田跡をはじめ、住居跡を検出し、地域の歴史を解明する貴重な資料を得ることができました。

広々とした水田跡をみる時、古代の人々が雄大な赤城山を眺めながら営々と築いた暮らしの足跡に思いを寄せずにはいられません。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり、ご理解とご協力をいただきました前橋市工業団地造成組合の方々、並びに例年にない暑さの中での発掘調査・整理作業に従事していただきました作業員の方々に対し厚く御礼申し上げます。

本報告書が前橋地区の歴史を解明する一助となり、また考古学研究の参考となれば幸いに存じます。

平成7年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　大谷輝治

例　　言

1．本報告書は、前橋工業団地造成組合（管理者　小寺弘之）が造成する上増田工業団地に係る中原遺跡群Ⅳ発掘調査報告書である。

2．遺跡は、群馬県前橋市上増田町470番地外に所在する。

3．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　大谷輝治が施工者前橋工業団地造成組合管理者　小寺弘之と委託契約を締結し実施した。

調査担当者および調査期間は以下の通りである。

発掘・整理担当者　　関口孝・新井真典（前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係）

発掘調査期間　　平成６年５月10日～平成６年11月８日

整理・報告書作成期間　平成６年11月９日～平成７年３月24日

4．本書の原稿執筆・編集は関口・新井が行った。

5．発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課に管理されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は座標北である。

2．挿図に、建設省国土地理院発行の１/20万地形図（宇都宮）と１/2.5万地形図（大胡）を使用した。

3．本遺跡の略称は６Ｆ３である。

4．各遺構の略称は次の通りである。

Ｈ…土師器使用の住居址　Ｄ…土坑址　Ｗ…溝址・水路

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。

遺構　　住居址…1/60　水田址…1/160　全体図…1/250　1/300　1/1000

遺物　　土器…1/3　1/4

6．スクリーントーンの使用は次の通りである。

遺構平面図　　水田陥没帯…細かい斑

遺構断面図　　構築面…斜線

遺物実測図　　須恵器断面…黒塗

目　　次

序

I　調査に至る経緯……2

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地……3

2　歴史的環境……4

III　調査の経過

1　調査方針……7

2　調査経過……7

IV　層　　序……9

V　遺構と遺物……10

VI　成果と問題点……13

図　　版

口絵　1　赤城山と中原遺跡群IV

口絵　2　中原遺跡群IVA・B区全景

口絵　3　中原遺跡群IVC区全景

口絵　4　中原遺跡群IV出土の土器群

PL.　1　中原遺跡群IVA・B区全景

PL.　2　中原遺跡群IVA・B区全景

3　A・B区水田址

4　B区水田址

5　C区住居址

6　C区住居址

7　C区住居址

8　C区溝址

9　H－1～2号住居址出土の土器

10　H－2～4号住居址出土の土器

11　H－4～7号住居址出土の土器

12　H－7～11号住居址出土の土器

13　W－11号溝址出土の土器

14　W－11号溝址出土の土器

15　W－11～13号溝址・その他出土の土器

挿　図

		頁
Fig. 1	中原遺跡群IVの位置	1
3	中原遺跡群IV周辺遺跡図	5
5	発掘調査経過図	8
7	A・B区水田址水の流れ	17
9	坪の内部の土地区画	19
11	C区全体図	25
13	A・B区水田址地形・地層断面図	27
15	水田址足跡	29
17	H－1・3号住居址	31
19	H－4号住居址	33
21	H－7・8号住居址	35
23	H-3号住居址周辺ピット溝址断面図	37
25	H－2・3号住居址出土の土器	39
27	H－6・7号住居址出土の土器	41
29	W－10・11号溝址出土の土器	43
31	A・B区水田址全体図	付図

		頁
Fig. 2	中原遺跡群IV調査経過図	2
4	グリッド設定図	6
6	標準土層図	9
8	坪割図	18
10	A・B区水田址グリッド図	24
12	A・B区水田址地形・地層断面図	26
14	A・B区水田址地形・地層断面図	28
16	水田址大畦畔	30
18	H－2号住居址	32
20	H－5・6号住居址	34
22	H-10・11号住居址 D-1号土坑址	36
24	H－1・2号住居址出土の土器	38
26	H－4・5号住居址出土の土器	40
28	H-7～11号住居址 W-1～10号溝址出土の土器	42
30	W-11～13号溝址・その他の土器	44

表

		頁
Tab. 1	水田址計測表観察表	20・21
Tab. 2	古墳時代～土器観察表	22・23

調査参加者　赤堀卓雅　浅田貴嗣　阿部こう　阿部シゲ子　阿部利一　新井雄一郎　飯島民弥
石井よね　浦野清司　遠藤芳雄　大野京子　岡田　明　落合高男　柿内　満
笠原禄郎　片貝賢慈　神谷年男　神沢とし江　北浦寛一　北浦将人　木村とみ子
喜楽トヨ　桐谷秀子　久保田海一郎　高坂　浩　小峰　篤　境野豊四郎　桜井　弘
下山清保　下山　敏　須田　光　菅田ツル　鈴木民江　田口桂子　多田啓子
塚本富江　登坂うた子　長岡徳治　中村新太郎　萩原秀子　蛭川富太郎　福島逸司
伏島みさを　細野定男　堀越晴子　松倉菊江　三浦雅明　村山ふで　矢島アイ子
柳井晶子　横田　稔　山田茂雄　関口智行

調査協力　群馬県教育委員会文化財保護課　群馬県埋蔵文化財調査事業団　山下歳信

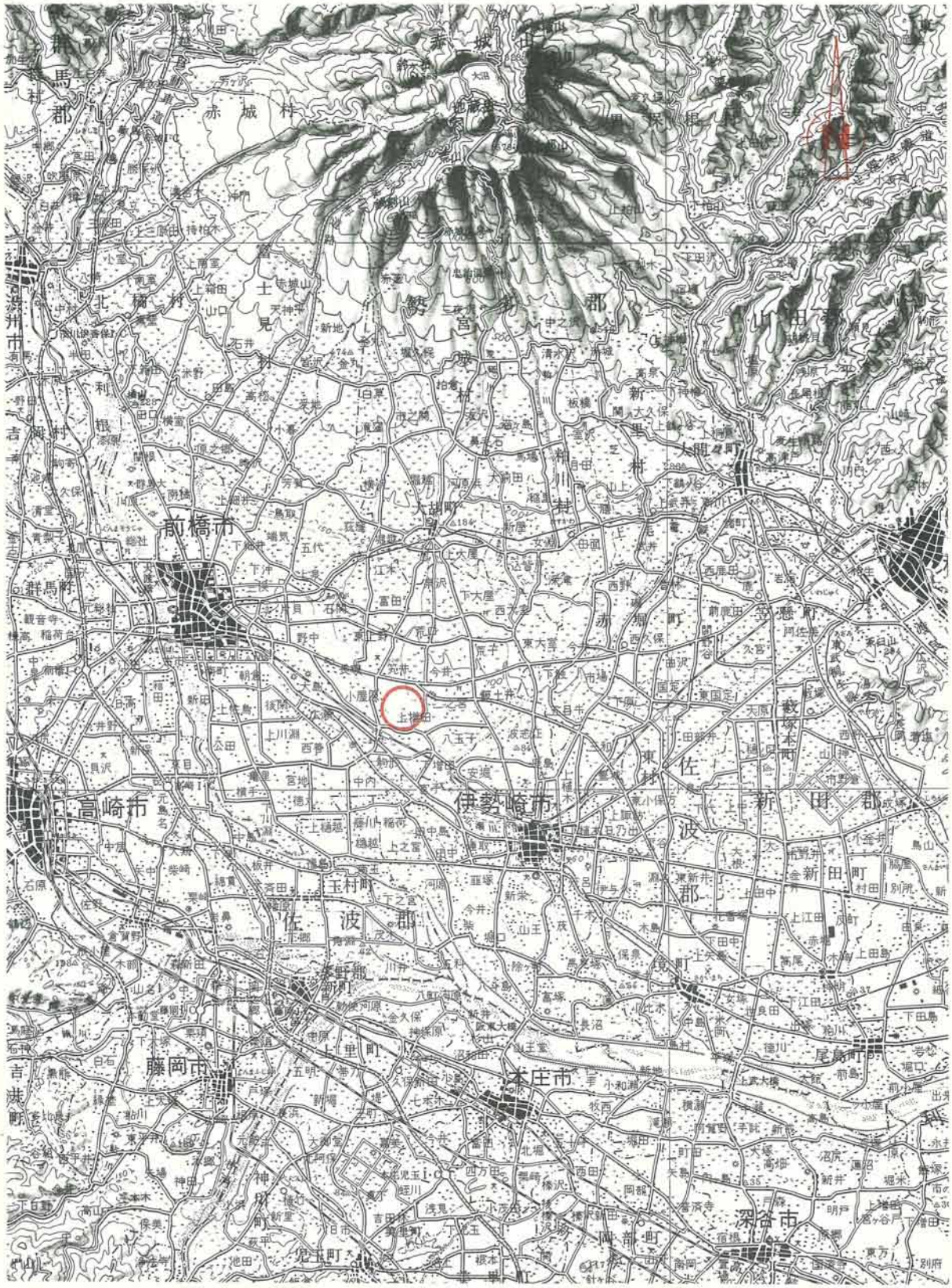


Fig. 1　中原遺跡群Ⅳの位置

I　調査に至る経緯

中原遺跡群の発掘調査は前橋工業団地造成組合（管理者　小寺弘之）から依頼された上増田工業団地予定地を対象に平成４年度から実施されているものである。

平成３年度、試掘調査が実施され、その結果水田址が確認された。発掘調査は平成４年度から実施され、本年度は第３年次にあたる。

本年度の調査は、平成６年４月28日付で委託契約が締結され事業実施の運びとなった。

調査範囲は平成４年度直営で行った部分に隣接する範囲（Fig. 2 参照）であり調査面積は約20,000㎡となった。調査期間は11月８日までの約６カ月間で行い、整理作業は平成６年11月９日から平成７年３月24日までであった。なお、遺跡名称『中原遺跡群Ⅳ』の『中原』は、旧地籍の小字名を採用している。

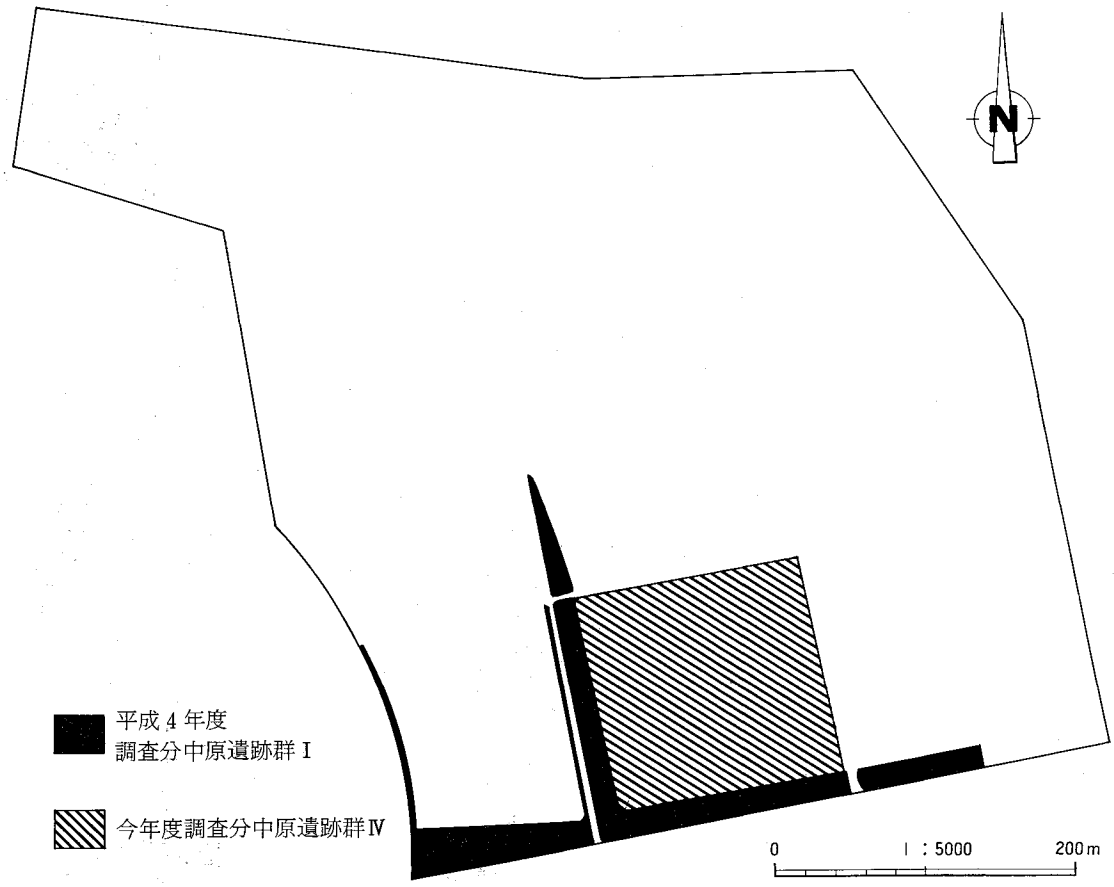


Fig. 2　中原遺跡群Ⅳ調査経過図

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

中原遺跡群は、県都前橋、その官庁街より車で国道50号線を東へ走ること約20分、距離にして8㎞、小島田町の信号機から南東に向かって約1㎞、上増田町に所在している。この町の周りには、笂井・今井・小屋原・二之宮・駒形・下増田の町々が点在している。

この上増田町の発掘現場は、二つの川に挟まれた格好になる。西に、やがて広瀬川と合流していく桃木川が、また、東に、源流を赤城山に持つ荒砥川が、流れている。遠く四方には真北に、赤城山が、西方には榛名山、浅間山、妙義山、谷川連峰や信州の山脈、八ヶ岳連峰さえも望むことができる。

本遺跡群の標高は約80m、位置的には関東平野の北端、赤城山南麓地帯のちょうど境目あたりになるのであろうか。ここは北から南へゆるやかに傾斜している地形で、その比高差は60cm前後であるから、ほぼ平坦であるといえよう。公共の交通機関はＪＲ両毛線が中心である。前橋駅からの下り線で初めの駅、駒形駅より歩いて20分、北東の所にある。駒形駅周辺は、最近次々に開発改良されている地域であり、ここ何年かの内に女子大や専門学校が建設された。

上増田工業団地造成地域は合わせて約260,000㎡という広大な面積になる。前年度までに発掘調査が済んだ部分（多くは道路部分）はすでに開発が行われており、現在も数十台の様々な重機が入り乱れる光景は壮観である。数年前までの荒涼とした地がやがて、日本の近代産業を担う企業達の活躍場所になる工業団地造成のため動いている。

広瀬川低地帯に位置する中原遺跡群は、沖積層からなっている。野外地質調査とテフラ検出分析の結果、下位より浅間Ｃ軽石（４世紀中葉)、榛名－渋川テフラ（６世紀初頭)、榛名－伊香保テフラ（６世紀中葉)、浅間Ｂテフラ（1108年）の４層のテフラの堆積が確認された。これらのテフラとの層位関係から中原遺跡群で検出された多くの洪水堆積物のなかに榛名－渋川テフラや榛名－伊香保テフラの堆積、さらには818年（弘仁9年）の地震に伴う山崩れに起因する洪水に対応する可能性のあるものが存在することが明らかになった。発掘調査で検出された水田遺構は、後者によって覆われた遺構である。

2 歴史的環境

中原遺跡群がある赤城山南麓に位置するこの地区は、古墳が多い群馬県下でも最も密な分布がみられる地域の一つとなっている。近年では圃場整備事業や大規模な開発事業が極めて急激にかつ広範囲にわたって行われ、それらに伴う発掘調査によって検出された遺跡が今現在も増え続けている。本遺跡群周辺の代表的な調査としては、上増田町の東側を通り今井町で国道50号に合流する上武国道の建設に伴う発掘調査であろう。

歴史的な環境の説明として、まず旧石器時代では、周辺では頭無遺跡(23)で細石刃やナイフ形石器等を伴う3枚の文化層が検出され、他に、尖頭器を中心に出土した北三木堂遺跡(40)、石山遺跡(54)、牛伏遺跡(78)等があげられるが、今後の調査によって遺跡の数はさらに増えるであろう。

縄文時代では、草創期から後期までの遺物が検出されている。草創期では、荒砥北原遺跡(39)、北三木堂遺跡(40)に見られる。早期は、荒砥北原遺跡(39)、柳久保遺跡(25)、前期は、鶴谷遺跡(29)、荒砥諏訪遺跡(32)、荒砥上ノ坊(15)、宮田遺跡(36)、東原遺跡(34)などがあり、中期では、荒砥諏訪遺跡(32)、荒砥北原遺跡(39)、二本松遺跡(53)、後期になると島原遺跡(71)等がある。晩期の遺跡はまだ発見されていない。

弥生時代は、荒口前原遺跡(38)で中期末の住居址が調査されている。その他の中期として、頭無遺跡(23)、島原遺跡(71)がある。後期では、宮下遺跡(35)などが知られている。

古墳時代になると、この地域は古墳の宝庫とも言われるくらいの県下有数の古墳密集地である。代表的なものとして、国指定史跡となっている西大室の前・中・後の3基の二子古墳(5・6・7)をはじめ、数多くの古墳が築造されている。その他として、丸山古墳(13)、立野古墳(12)、阿久山古墳(13)、東原遺跡(34)、今井神社古墳(44)、宿畑古墳(65)、二之堰古墳(60)、阿弥陀山古墳(76)、台所山古墳(61)、宮見戸古墳(59)、お富士山古墳(66)、上陽10号墳(75)など枚挙にいとまがないほどである。一方、集落調査についても増加がみられる。前期のものは内堀遺跡群(40)、荒砥宮田遺跡(36)、荒砥東原遺跡(34)、大室小学校校庭遺跡(9)等で、中期は集落址のほかに荒砥荒子遺跡(19)のような豪族居館址が発見されている。

奈良・平安時代に至ると、近隣した台地上に多数の集落が出現する。集落跡は、中鶴谷遺跡(22)、頭無遺跡(23)が知られ、浅間B軽石によって埋没した水田跡としては、柳久保水田址(24)が知られている。

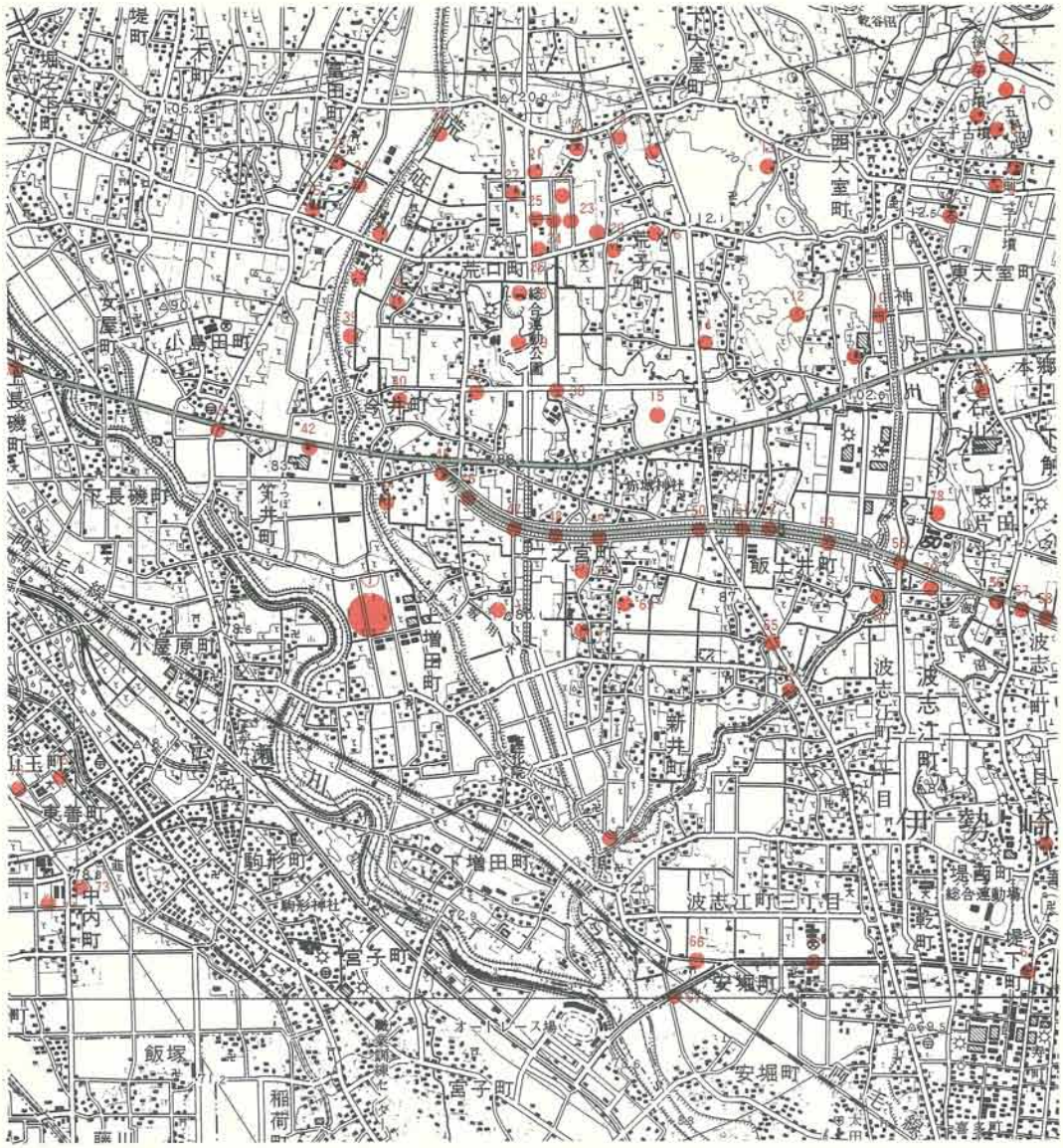


Fig. 3　中原遺跡群Ⅳ周辺遺跡図

0　1：50000　4 km

1. 中原遺跡群　2. 下縄引遺跡　3. 上縄引遺跡　4. 内堀遺跡群　5. 後二子古墳　6. 中二子古墳　7. 前二子古墳　8. 荒砥上諏訪遺跡　9. 大室小学校校庭　10. 荒砥東原遺跡　11. 丸山古墳　12. 立野古墳　13. 阿久山古墳　14. 荒砥荒子遺跡　15. 荒砥上ノ坊遺跡　16. 荒砥中屋敷遺跡　17. 堤東遺跡　18. 川籠皆戸遺跡　19. 荒子小学校校庭遺跡　*20. 頭無遺跡　*21. 柳久保遺跡　22. 中鶴谷遺跡　*23. 頭無遺跡　24. 柳久保水田址遺跡　*25. 柳久保遺跡　26. 下鶴谷遺跡　27. 諏訪遺跡　28. 荒砥大日塚遺跡(29. 鶴谷遺跡　30. 荒砥大日塚遺跡B　31. 荒砥大日塚遺跡A　32. 荒砥諏訪西遺跡　33. 東原古墳　34. 東原遺跡　35. 宮下遺跡　36. 荒砥宮田遺跡　37. 荒砥前田遺跡　38. 荒口前原遺跡　39. 荒砥北原遺跡　40. 荒砥北三木堂遺跡　41. 野中天神遺跡　42. 筑井八日市遺跡　43. 今井白山遺跡　44. 今井神社古墳　45. 今井道上・道下遺跡　46. 二之宮谷地遺跡　47. 二之宮洗橋遺跡　48. 二之宮千足遺跡　49. 二之宮宮下西遺跡　50. 二之宮宮東遺跡　51. 飯土井上組遺跡　52. 飯土井中央遺跡　53. 飯土井二本松遺跡　54. 石山遺跡　55. 波志江今宮遺跡　56. 波志江天神山遺跡　57. 波志江六反田遺跡　58. 波志江中峰岸遺跡　59. 宮貝戸古墳群　60. 二之堰古墳群　61. 台所山古墳　62. 八幡町遺跡　63. 中組遺跡　64. 赤石城址遺跡　65. 宿畑古墳群　66. お富士山古墳　67. 西太田遺跡　68. 荒砥前原遺跡　69. 青柳遺跡　70. 荒砥天之宮遺跡　71. 島原遺跡　72. 宮原遺跡　73. 前田遺跡　74. 西三並遺跡　75. 上陽10号墳　76. 阿弥陀山古墳　77. 荒砥下押切遺跡　78. 牛伏遺跡

（注：20・21は県事業団、23・25は市調査団）

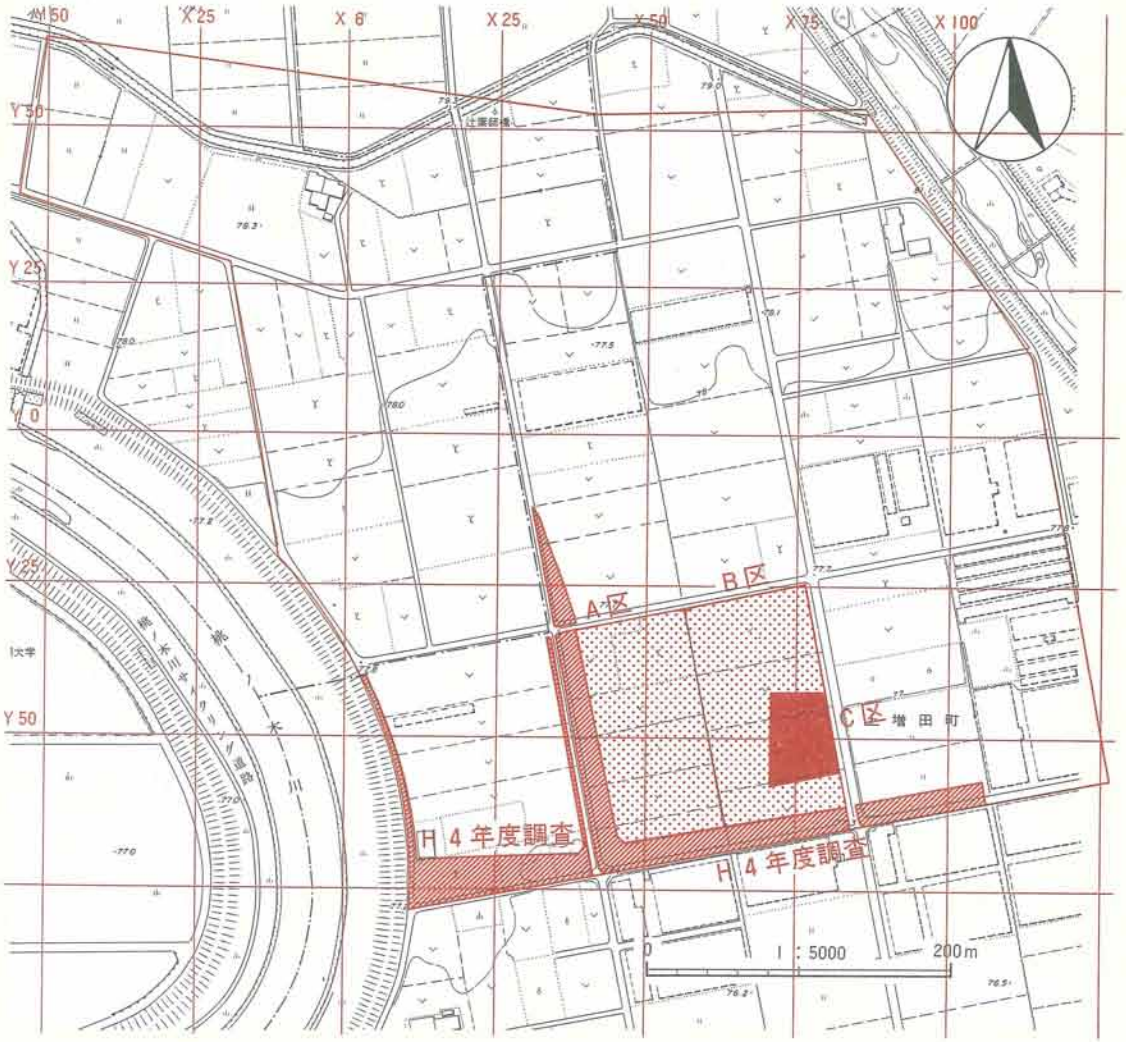


Fig. 4　グリット設定図

III 調 査 の 経 過

1 調査方針

平成６年度の上増田工業団地造成に伴う中原遺跡群Ⅳの発掘調査面積は、約20,000㎡であった。調査部分は東西南北に走る道路に囲まれた真四角に近い形であった。

調査区の呼称方法については、調査区をちょうど半分に分けている南北に通る水路（最近まで使用）で区切り、西側をＡ区、東側をＢ区と呼称した。(Fig. 4 参照）また、２面目の遺構が確認された場合はＣ区，Ｄ区と呼称することにした。

グリッドについては、４ｍピッチで西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３…と、北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３…と番付し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。Ｘ60・Ｙ45の公共座標は第Ⅸ系＋39.720km（Ｘ）・－61.060km（Ｙ）であり、緯度は36°21′21″.9451、経度は、139°09′10″.4563である。なお、このグリッドについては、中原遺跡群Ⅰ（平成４年度）を継続しているためＸ０・Ｙ０は今年度の調査区外となった。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、水田址は1/40、住居址は1/20の縮尺で、住居址竈は1/10の縮尺で作成した。遺構の遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をとりながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納したが、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。また、プラン確認の段階で1/100の現況図を作成し、その後の調査に活用した。

2 調査経過

平成６年５月10日、Ａ区南東部の地に重機（0.7㎥）を投入して調査が始まった。今回は一昨年度調査と隣接する区域が対象である。耕作土（数十センチ）を次々と排除していったところ、その下から818年（弘仁９年）に大地震が起こり、その際の川の氾濫で積ったと言われている洪水層が顔を出した。５月を終えた段階では、Ａ区の3/4の表土掘削で水田址が60枚近く検出された。が、５月の調査メインは「川（Ｒ－１)」と「溝（Ｗ－１)」であった。特にＲ－１は幅４～５ｍ、深さ１ｍ以上、長さは直線にすれば200mになるであろう、まさしく川であり、Ａ区を南北に蛇行しながら流れていたため重機も近寄れず、人の労働力に頼らざるに得ない状況下の川掘りとなった。発掘調査というより発掘工事の感覚に陥った。

６月、ジョレンかけの遺構掘り下げ・移植ゴテやスプーンによる精査を2/3終えた。水田址の保存状態は極めて良好だった。畦畔の高さ10～20cm、幅20cm、硬度もかなりしっかりしていて現在の水田と比較しても一向に遜色なしといえる。さらに水の出し入れ調整口としての機能をいかんなく発揮していたであろう「水口」が畦畔のところどころに、また、その水田に携わった人間の足跡が数え切れず点在していた。およそＡ区、10,000㎡に存在する70枚程の水田址は均一化ではなく、密集していた。Ｂ区の重機による表土掘削も順調で北東部を除き全面水田址が確認された。

7月は、猛暑であった。連日40度の気象観測史上記録的な夏の到来となり、調査現場は十分な健康管理に気をつけながら作業を進めて行った。前半はA区の精査、後半はB区のジョレンかけであった。B区の作業の中、水田址に土器の破片があちらこちらに散乱しているのが目立った。一昨年と同様のつもりで1面調査のみを考えていたが、その下に住居址があることも予想され、日程の組み直しも考えた。

8月、調査はまずまず順調に進んだ。70%のB区精査を終了させたところでしだいに中原遺跡群の全容が明かされようとしていた。大まかなこととして、遺跡全域に立派な水田が作られている。B区南西部には歩いた足跡が明瞭に印されている。特にB区中央部の東西方向に伸びる大畦畔が存在していたことは、条里制に関係することとして、これまでの発掘調査部分とからめて突き詰めていく必要があった。8月もやはり酷暑が続いたが、2日間降り続いた雨で遺構が水没したこともある。

9月、いよいよ仕上げを迎える。草をむしり、遺構を掃き、畦畔に石灰でラインを引き撮影の日を待ったが、直前雨が降ったので、掃除のやり直しとする。12日、どうにか23mのハイライダーより全景写真を撮った。さらに上空よりのラジコンヘリコプターによる空撮に備えたがまた豪雨。水中ポンプを導入し、21日にはヘリが調査区を旋回した。ともかくも水田址の全調査、1面目が終了した。

翌日から2面目調査となった。一番初めに表土掘削した部分より住居址が検出された。続いて2軒目と溝址。約2,000m²を剝がして10軒の住居址と数条の溝址等の検出。以後50日余りの期間で遺物上げ、セクション、平面図、多忙であったが住居址の壁面がそれほどなかったことでどうにか、10月いっぱいで2面目の調査もやり終えることができた。11月1日、ハイライダーによる全景写真。8日現場引っ越し。調査区域はただちに埋め戻されていった。

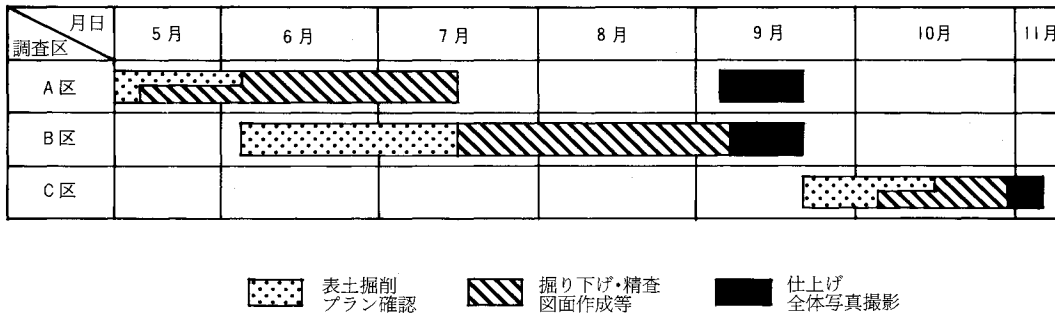


Fig. 5　発掘調査経過図

IV 層　　序

本遺跡群は、赤城火山の南麓に広がる大胡火砕流堆積面や後期更新世前半に形成された扇状地を、その後完新世において北東から南東に向かって大規模に侵食、形成されていった旧利根川(現在の桃木川）の河成段丘を主体に立地している、いわゆる広瀬川低地帯の左岸に位置しているため、沖積層の良好な地層が作出されている。さらに、遺跡群の東側には赤城山に源流を持つ荒砥川が南流しており、古くから様々な自然災害時にはこれら二つの河川は氾濫を繰り返し、洪水や流路の変更等の二次的な災害も余儀なくされたことであろう。このため、本遺跡群内の層序は小河川の旧流路にあたる地点や旧中洲状であった場所等、各地点によりその堆積状況に違いはあるものの、今回直営で調査を実施した場所については、基本的にFig. 6 に示した通りである。

I　層　黒褐色粗砂層。粘性・締まりともになし。現在の耕作土層。

II　層　暗褐色粗砂層。粘性・締まりともにややあり。As－B（浅間B軽石：1,108年降下）をわずかに含む。

III　層　褐灰色粗砂層。818年洪水層。粘性を有し、締まりややあり。上部にHr-FP（榛名－伊香保テフラ：6世紀中葉降下)、下部に細砂が入り、亜角礫や角礫に富む。

IV　層　褐灰色微砂層。平安時代水田畦畔確認層。粘性・締まりともにあり。

V　層　暗褐色細砂層。粘性・締まりともにややあり。Hr-FPを10%程含む。

VI　層　暗褐色細砂層。粘性、締まりともにあり。古墳時代面確認層。Hr-FPがおよそ10%みられる。オレンジ色を呈したHr-FA（榛名－渋川テフラ：6世紀初頭降下）が細い帯状に入る。

VII　層　暗褐色細砂層。粘性・締まりともにとくにあり。As－C（浅間C軽石：4世紀中葉降下）が20%程みられる。

VIII　層　黄褐色微砂層。粘性、締まりともにややあり。

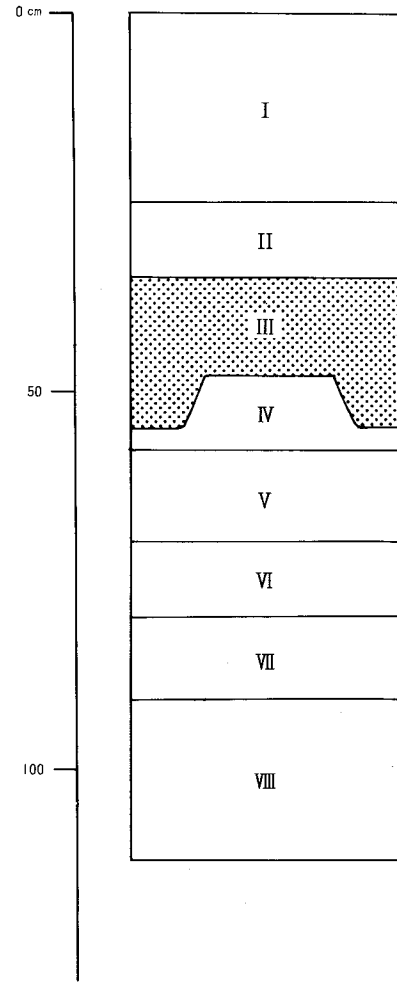


Fig. 6　中原遺跡群Ⅳ標準土層図

V 遺構と遺物

本年度は2面の発掘調査を行い、1面目からは、水田址161枚、溝址1条、川址1条、2面目からは、住居址10軒、土坑1基、溝址8条、柱穴6基が検出された。

1面目の水田址及び溝址・川址は平成4年度『中原遺跡群Ⅰ』で述べたように、平安時代の818（弘仁9）年の大地震に起因する洪水層によって覆われたものである。また本年度調査の水田址№1、51、150、151、153、154、156、158、161は、平成4年度調査の水田址№29、15、13、12、11、9、7、4、1とそれぞれ同一の水田になることが判明し、水田址の総数は平成4年度分と合わせ213になる。

2面目の住居及び土坑、柱穴は、覆土にHr-FAの純層が存在することや、鬼高Ⅲ式の甕等が出土することから古墳時代後期の遺構と考えられる。溝状遺構は古墳時代前期～古墳時代後期のものと考えられる。

1 住　居　址

H－1号住居址（Fig.17、PL．5）

位置　X77～79、Y43・44グリッド　**面積**　16.4m²　**方位**　N－63°－E　**形状**　長軸5.10m、短軸3.42mの長方形を呈する。壁高は0.10mを測る。　**竈**　全長1.04m、全幅1.26m　**遺物**　遺物総数は578点、図示できたものは土師器坏（1・2）、土師器甑（3）、土師器甕（4・5）の5点である。　**備考**　古墳時代後期。

H－2号住居址（Fig.18、PL．5）

位置　X74～75、Y44・45グリッド　**面積**　30.7m²　**方位**　N－66°－E　**形状**　長軸5.7m　短軸5.6mのほぼ方形を呈する。壁高は0.16mを測る。　**竈**　全長1.0m、全幅1.0m　**重複**　W－12に切られる。　**遺物**　遺物総数は733点で、うち図示できたものは土師器坏（6・7・8）、土師器椀（9）、土師器甕（10・12・13・14・15・16・17・18）、須恵器甕（11）の13点である。　**備考**　古墳時代後期。

H－3号住居址（Fig.17、PL．5）

位置　X75・76、Y46・47グリッド　**面積**　10.7m²　**方位**　N－62°－E　**形状**　長軸3.56m、短軸3.36mのほぼ方形プランを呈する。壁高は0.16mを測る。　**竈**　全長0.74m、全幅0.82m　**遺物**　遺物総数は191点で、図示できたものは土師器坏（19・20・22）、土師器台付甕（21）、須恵器坏（23）の5点である。　**備考**　古墳時代後期。

H－4号住居址（Fig.19、PL．6）

位置　X69～71、Y45・46グリッド　**面積**　24.0m²　**方位**　N－79°－E　**形状**　2軸5.1mの方

形。壁高は0.38mを測る。 **重複** W－11に切られる。 **竈** 全長1.0m、全幅1.06m **遺物** 総数は617点を数えるが、図示できたものは土師器坏（28・29・30・31・32)、土師器甕（24・25・26・27・33）10点である。**備考** 古墳時代後期。

H－5号住居址（Fig.20、PL. 5）

位置 X75・76、Y47・48グリッド **面積** 15.3m² **方位** N－90°－E **形状** 長軸5.2m、短軸3.9mの楕円形。壁高は0.09mを測る。 **遺物** 総数は49点を数えるが、図示できたのは土師器坏（34)、紡錘車（35）の2点である。 **備考** 古墳時代後期。

H－6号住居址（Fig.20、PL. 6）

位置 X76～78、Y49～51グリッド **面積** 26.1m **方位** N－56°－E **形状** 2軸ともに5.3mの方形を呈する。壁高は0.34mを測る。 **竈** 全長1.16m、全幅0.94m **遺物** 総数は159点を数えるが、図示できたのは土師器甕（36・37・40)、土師器坏（38・39）の5点である。 **備考** 古墳時代後期。

H－7号住居址（Fig.21、PL. 6・7）

位置 X72・73、Y49・50グリッド **面積** 26.1m² **方位** N－68°－E **形状** 長軸3.52m、短軸3.06mの長方形を呈する。壁高は0.23mを測る。 **重複** W－11に切られる。 **竈** 全長0.8m、全幅0.92m **遺物** 総数は364点を数えるが、図示できたのは台付鉢（41)、土師器甕（42・43・44)、土師器甑（45)、須恵器蓋（46）の6点である。 **備考** 古墳時代後期。

H－8号住居址（Fig.21、PL. 7）

位置 X75～77、Y52・53グリッド **面積** 19.8m² **方位** N－40°－E **形状** 長軸4.96m、短軸4.92mのほぼ方形。壁高は0.23mを測る。 **竈** 全長1.58m、全幅1.0m **遺物** 総数は41点を数えたが、図示できた遺物はなかった。 **備考** 古墳時代後期。

H－10号住居址（Fig.22、PL. 7）

位置 X74・75、Y52・53グリッド **面積** 11.0m² **方位** N－90°－E **形状** 長軸4.0m、短軸3.06mの長方形を呈する。壁高は0.19mを測る。 **重複** W－11に切られる。 **遺物** 総数は428点を数えるが、W－11と遺物上げを一括で行ったため図示できた遺物はない。 **備考** 古墳時代後期。

H－11号住居址（Fig.22、PL. 7）

位置 X71・72、Y44・45グリッド **面積** 8.0m **方位** N－72°－E **形状** 長軸2.94m、短軸2.81mのはぼ方形。壁高は0.45mを測る。 **重複** W－13、17に切られる。 **竈** 全長1.16m、全幅0.94m **遺物** 遺物総数は358点を数え、図示できたものは土師器高坏(47)、土師器甕(48)、

土師器椀（49)、土師器甑（50)、土師器坏（51・52)、土師器小甕（53）7点である。 **備考** 古墳時代後期。

2 土　　坑

D－1号土坑（Fig.22）

位置 X78、Y45グリッド **面積** 3.43㎡ **形状** 楕円形 **遺物** 総数15点 **備考** 古墳時代後期以降

3 溝　　址

W－10号溝址（Fig.11、ＰＬ．8）

位置 X77～80、Y42～49グリッド **形状** 総延長（31.2）m、上幅2.75m、下幅0.83m、深さ1.14m。断面はすり鉢状の形。 **重複** W－12、W－15を切る。 **遺物** 総数786点で図示できたのは土師器坩（57・62)、土師器甕（58・59・63)、土師器高坏（60)、土師器椀（61)、土師器甑（64）の8点である。 **備考** 古墳時代後期。

W－11号溝址（Fig.11、ＰＬ．8）

位置 X69～76、Y45～56グリッド **形状** 総延長(50.1)m、上幅1.4m、下幅0.7m、深さ0.29m。断面は楕円を半分に切った形。 **重複** H－4、H－7、H－10を切る。 **遺物** 総数は2,584点と多く、図示できたのは土師器坏（67・68・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・90・91・92)、土師器高坏（65)、土師器小鉢（66)、須恵器坏（69)、須恵器壷（70）の28点である。 **備考** 奈良時代以降。

W－12号溝址（Fig.11、ＰＬ．8）

位置 X70～79、Y44・45グリッド **形状** 総延長(36.3)m、上幅0.8m、下幅0.2m、深さ0.25m。断面はすり鉢状の形。 **重複** H－2、W－13、W－16を切る。 **遺物** 総数は313点で図示できたのは須恵器坏（93）である。 **備考** 古墳時代後期以降。

W－13溝址（Fig.11）

位置 X71～73、Y43～47グリッド **形状** 総延長（21.2）m、上幅0.57m、下幅0.35m、深さ0.17mを測る。断面は逆台形。 **重複** H－11、W－14を切る。W－12に切られる。 **遺物** 総数は206点で図示できたのは土師器坏（94）である。 **備考** 古墳時代後期以降。

W－14号溝址（Fig.11）

位置 X71～73、Y42・43グリッド **形状** 総延長は（10.3）m、上幅0.3m、下幅0.11m、深さは0.08mを測る。断面はすり鉢状の形。 **重複** W－13に切られる。 **遺物** 総数は11点。 **備考** 古墳時代後期以降。

W－15号溝址（Fig.11）

位置　X78・79、Y46・47グリッド　**形状**　総延長（3.8）m、上幅0.86m、下幅0.45m、深さ0.2mを測る。断面はすり鉢状の形。　**重複**　W－10に切られる。　**遺物**　総数は1点。　**備考**　古墳時代後期以降。

W－16号溝址（Fig.11、ＰＬ．8）

位置　X72～74、Y44グリッド　**形状**　総延長(6.0)m、上幅0.4m、下幅0.1m、深さは0.07m。断面はすり鉢状の形。　**重複**　W－12に切られる。　**備考**　古墳時代後期以降。

W－17号溝址（Fig.11、ＰＬ．8）

位置　X70～72、Y44グリッド　**形状**　総延長（6.0）m、上幅0.4m、下幅0.1m、深さ0.12m。断面は楕円を半分に切った形。　**重複**　H－11を切る。　**遺物**　総数は3点。　**備考**　古墳時代後期以降。

4　水　田　址

№1～70はA区、№71～161はB区に存在する。平安時代。Tab.1参照。

5　グリッド出土遺物

古墳時代前期

X46・47、Y58・59グリッドからは、遺物総数693点が出土した。そのうち赤井戸式土器や樽式系および石田川式土器の遺物割合は20％になる。図示できた遺物は1点である。

VI　成　果　と　問　題　点

群馬県は、水田址の発掘調査が盛んである。高崎市においては、日高遺跡、新保遺跡、西島遺跡、前橋市でも利根川西岸の前箱田遺跡、勝呂遺跡、柳橋遺跡等において水田址の調査が行われている。その多くはAs-B（1108年）下水田址で、その他弥生時代の水田址（日高遺跡）や古墳時代の水田址（新保遺跡）がある。利根川西岸のAs-B下の水田址では条里制の存在が確認されているが、いずれも平安時代後期（1108年）の水田址である。そのなかで中原遺跡群は、利根川東岸に位置する水田址であり、かつ平安時代初期（818年）の水田址で、当時の水田耕作の様子や条里制を研究するうえで貴重な資料を提供する遺跡と言える。また当初は一昨年の調査結果から平安時代1面の調査を予定していたが、水田址下の試掘により住居址の存在が確認され、さらに古墳時代1面の調査が追加された。その面積は2万m²以上に及ぶものであり、上増田地区の古墳時代から平安時代初期における生活の一端をかいま見ることができた。本遺跡地は広瀬川低地帯と呼ばれる古利根川の河床にあり、遺跡の存在すら考えられなかった地域であり、広大な水田と住居の存在は驚きであると共に、土地の活用に対する当時の人々のたくましさを感じさせられる。

1　古墳時代

A区南西部X46・47、Y58・59グリッドの出土遺物は、赤井戸式土器や樽式系、石田川式土器で、As-C軽石が混入する土層中から出土している。2次堆積の可能性も否定できないが、4世紀中葉前後と考えたい。

C区から検出された10軒の竪穴式住居は、いずれも古墳時代後期のものである。なかでもH－6は、覆土にHr-FAの純層があることから最も古く、5世紀末～6世紀初頭と考えられる。またHr-FAは認められなかったが、H－11も出土遺物から、同時期の住居と考えられ、他の8軒の住居は、出土遺物から6世紀末～7世紀初頭の住居と考えられる。また、竈の袖についてであるがH－1、6には石が使用されており、H－2、4、7は土器が使用されている。H－4の竈の天井石には長胴甕を2本連結したものを使用し、この竈の形態は、本遺跡群の東約2kmにある荒砥青柳II遺跡（二之宮小校庭）で検出された住居址の竈の形態に酷似している。H－4、7、10の住居址はW－11に切られ、それぞれの住居址に含まれていた遺物は南に流された状態で出土した。W－11から出土した遺物には奈良時代の坏があることから、W－11は奈良時代以降の溝と考えられる。W－10は幅約2.5m、深さ約1.3mの大きな溝であるが、中上位にHr-FAの純層を含むことから、6世紀初頭以前には存在していたと考えられる。また、この溝は、B区北部のX68、Y27の方向に連続することが確認されている。C区の住居址および溝の分布はさらに東側にも連続するものと思われる。

2　平安時代

2万m²に及ぶ広大な調査区のほぼ全面から平安時代初期の水田址が検出された。これによって平成4年度の調査では未解決の部分も明らかにすることができた。前回の調査結果を踏まえ、今回の発掘調査で明らかになった事を以下に述べたい。

(1) 陥没水田

陥没水田はA区水田址№4．5．6．12．56．57．58．61．63．B区水田址№77．80．83．90．91．92．93．(Fig.12) で見ることができる。陥没の深さは最大30cm程で水田面に連続した状態で存在し、その外観からも水田下にかつて河川が存在した様子がうかがえる。さらに陥没水田下の地層断面 (Fig.13) を見ると、耕作土下には、平行葉理の発達した砂層、砂礫層が堆積し、厚い砂層の上位にはHr-FAの純層が堆積している。このことから5世紀末～6世紀半ばにかけて幅7m程の河川が存在していたことが分かる。その後、この河川は埋没し、この付近一帯が開墾され水田が作られた。水田面上位の地層断面 (Fig.13) からAs-B (1108年) は、水平に堆積し、陥没していないことがわかる。このことから、陥没は水田が埋没した818年以降から1108年の間に起こったといえる。水田が陥没した原因は、水田面上位の覆土の圧力によるもの、または旧河川中の地下水が減少し砂層、砂礫層が凝縮をしたためと考えられる。

(2) 配　水

A区北西部から南東部にかけて水田址の中を川（R－1）と溝（W－1）が平行して走っている。川は水田の中を蛇行して流れ、溝は両側に立派な堤を持ち、ほぼ直線的に流れている。この川も溝も水田を覆った軽石質の洪水層によって埋め尽くされており、水田と同時期のものといえる。特に溝はしっかりした堤を持ち、直線的で深さも一定していることから、水田に配水する目的で人工的に作られたものと考えられる。溝の堤は左岸4箇所、右岸6箇所の水口を持つが、右岸は水口に比べ水田面が低いことから、すべて取水用の水口として利用されていたと思われる。左岸の水口は、溝の東側に分布する水田への水を供給するためのものとも考えられるが、水田面の標高を考えると3箇所は無理がある。この地域の水田に水を供給したとすれば水口と水田面の標高差から№69の水田にある最も南側の水口のみ可能と考えられる。ここから取水した水はB区南部№135、138等の水田に配水が可能である。したがって、A区に検出された溝は、この付近の水田に水を供給するためでなく、もっと下流にある水田に配水する目的でつくられたものと考えることが妥当といえる。A区西部、北東部およびB区北部はW－1とは別の溝あるいは川からの水の供給があったと考えられる。なお、水田面の標高差から想定される水の流れは、図(Fig. 7)に示した通りである。

(3) 条里的土地割

本年度の発掘調査により、A区、B区から東西走向の大畦畔（幅約70cm）1本、南北走向の大畦畔（幅約50cm）1本を検出した。2つの大畦畔はA区中央東側で直交し方格の土地区割を構成していることが判明した。整然と区画された水田の遺構から、かつてこの土地に条里制による土地割が存在したことがうかがえる。弥永貞三の『条里制の諸問題』によると、ある土地割が条里的であるか否かの基準は次の2点にある。

A．1町（約109m）四方の方格の土地割であること。

B．1町の方格の内部が、長地型または半折型(Fig. 9)ないしその変形とみなすべき土地割によって区画されていること。

以上の2つの条件またはBの条件を備えたものは、かつて条里が施行されていた可能性があると考えてよいということである。

そこで、本地域の水田遺構を次の2つの観点から分析をした。

(ア) 方格の土地割の存在について

中原遺跡群は上増田工業団地造成に伴う文化財発掘調査で、調査面積は約250,000m²におよびそのほぼ全面から中世の水田址の存在が推定される広大な遺跡地である。発掘調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団およびスナガ環境測設株式会社が担当し、平成4年度より継続して行っているものである。ここで示した水田址の概要（Fig. 8）は、両者の調査結果（平成4年度分および平成6年度分の一部）をまとめたものである。これによると東西走向の大畦畔が5本、南北走向の大畦畔が2本検出されている。これらの大畦畔の位置と走向を基準に一辺約109mの方格を想定すると図（Fig. 8）のようになる。南北走向の坪境はN－0°－E、東西走向の坪境はN－88°－Wにな

り、ややゆがんだ方格となる。この方格地割を坪と考えると、本遺跡地内では24の坪並を認めることができる。これらの坪を仮に一番の坪、二番の坪、…二十四番の坪と呼称することとする。以上のことをまとめると、本遺跡地内の水田は次のようにいえる。

① ほぼ直交する東西および南北走向の坪境畦畔（大畦畔）によって整然と区画された坪並が存在する。

② 坪並の区画基準は、１町間隔（約109m）の坪境畦畔の造築によった土地区画である。

③ ①②から条里的土地区画の存在基準であるＡの条件を満たすといえる。

(イ) 方格（坪）の内部

条里的土地区画の存在を確認する観点として、坪内の土地区画を論ずる必要がある。本年度調査区のＡ区東部中央には東西走向の大畦畔と南北走向の大畦畔の交点（公共座標IX系Ｘ39725.00、Ｙ－61070.60）があり、この交点の南西には十九番の坪がある。この坪内には、直交するそれぞれの大畦畔と平行する畦畔が存在し、特に南北走向の畦畔は連続性のあるものが６本、東西走向の畦畔は、１本ある。長地型の土地割を想定した場合、１間を1.81mとすると南北走向の畦畔が６間間隔に存在するはずであるが、ＡＢ間のように約12間間隔のものがある。さらに東西走向の畦畔は大畦畔からの距離（Ａ－Ｆ間）が約30間になることから十九番の坪内部の土地割は半折型と考えてみた。そこで、Ａ区東部中央にある大畦畔の交点をＡとし、そこから東に向かって約12間間隔に存在する畦畔交点にそれぞれＢ～Ｅとし、交点Ａの南へ約30間の距離に存在する畦畔交点をＦとした。さらにＦより東へ約12間間隔に存在する畦畔の交点をＧ～Ｊとした（Fig. 9）。Ａ～Ｊの長さを測定した結果は、Fig. 9 に示した。また、区画ＡＢＧＦ（溝部分を除く）、ＢＣＨＧ、ＣＤＩＨ、ＤＥＪＩの面積は、それぞれ1.1段、1.1段、1.0段、1.1段となり、半折型の土地区画に酷似していることが分かった。以上のことをまとめると、十九番の坪内の土地区画は次のようになる。

① 十九番の坪内部の水田は、東西約12間、南北約30間の区画で作られている。

② １区画の水田の面積は、約１段である。

③ ①②から半折型の土地区画の存在が確認でき条里的土地区画の存在基準であるＢの条件を満たすといえる。

以上のことから本遺跡群の水田址は約109m間隔の大畦畔によって方格に区画された条里制の水田址で、坪内部の土地区画は、半折型であるといえよう。

今回の調査で、条里制によって区画された水田址の存在が明らかになったが、これにともなう集落が未だ検出されていない。平安時代の住居址は、民間委託分の調査区からわずか２軒検出されただけである。条里制という当時の画期的な大事業を行った人々、またこの広大な水田を耕作していた人達の住居はどこにあったのか未解決の部分も多い。さらに口分田がどのように行われたかなど分析が不十分であった。これらを今後の課題としたい。

参　考　文　献

三上次男ほか　　1967　『歴史時代（下）条里制の諸問題』
群馬県教育委員会・財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1982　『日高遺跡』

高崎市教育委員会　1985　『西島遺跡群（II）』
前橋市教育委員会　1987　『勝呂遺跡』
新里村教育委員会　1991　『資料集　赤城山麓の歴史地震』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1993　『中原遺跡群Ⅰ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1994　『中原遺跡群Ⅱ』

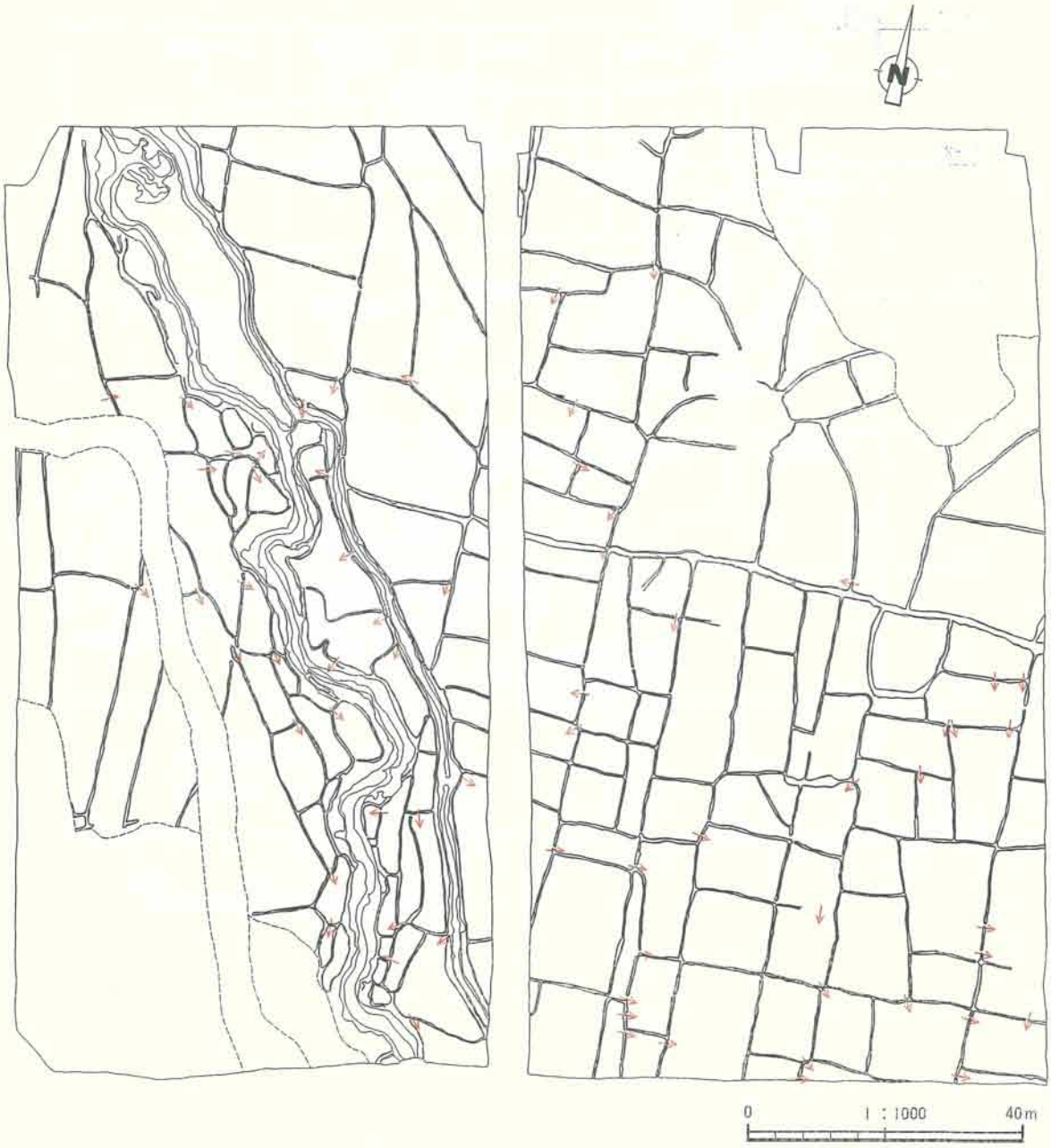


Fig. 7　中原遺跡群ⅣA・B区水田址　水の流れ

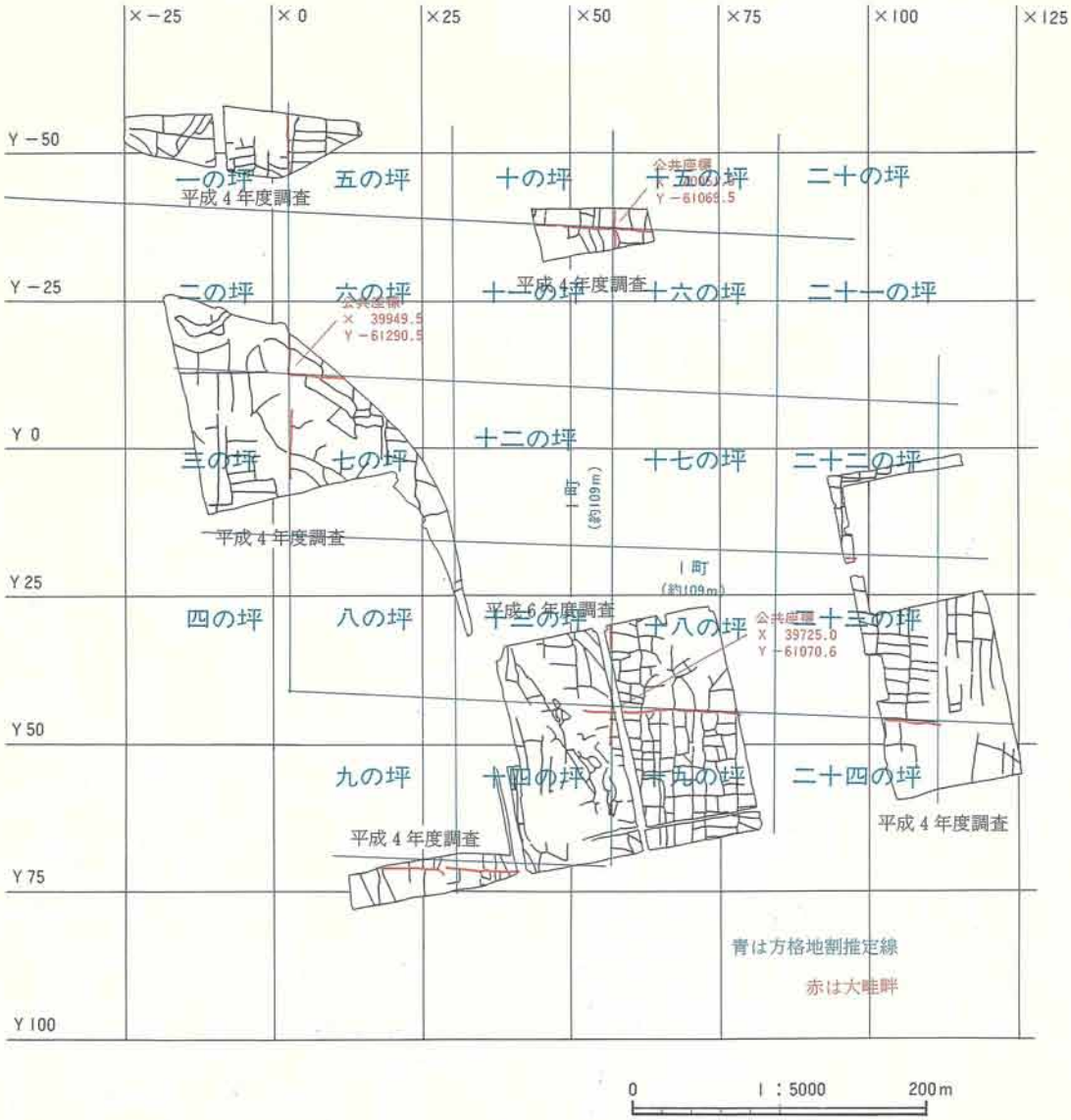
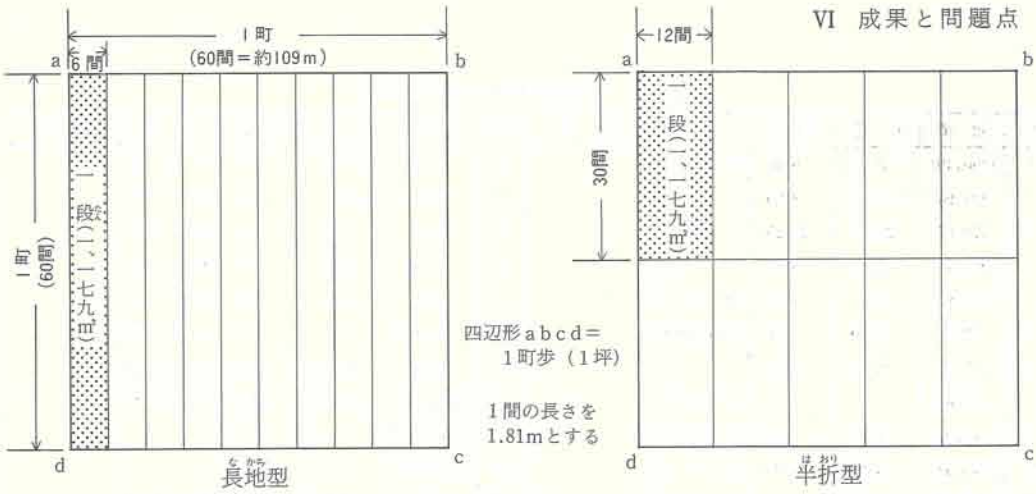


Fig. 8　中原遺跡群Ⅳ　坪割図



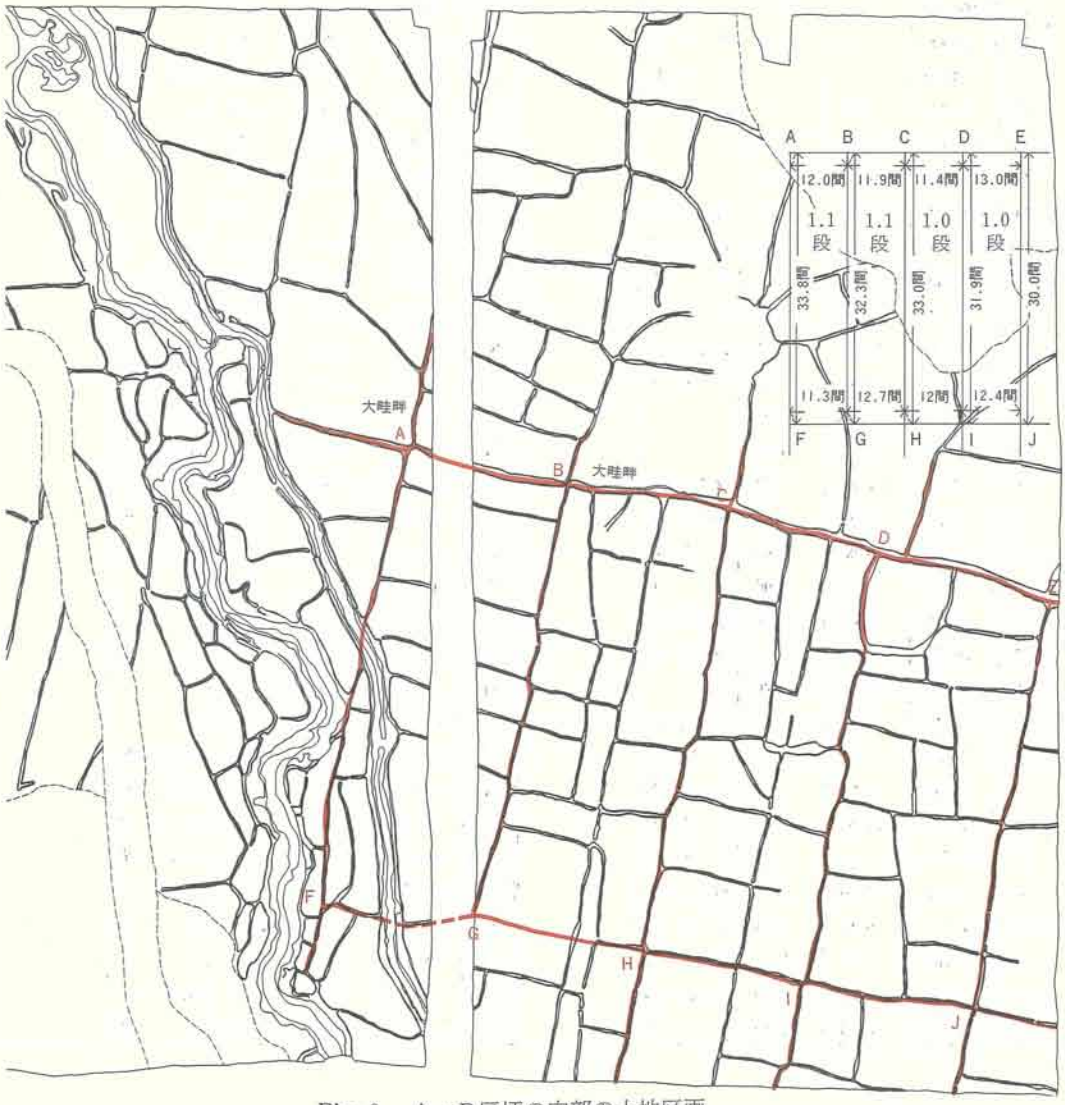


Fig. 9　A・B区坪の内部の土地区画

Tab. 1　中原遺跡群Ⅳ水田址計測表

番号	面積	長辺	短辺	形状	備考	番号	面積	長辺	短辺	形状	備考
1	(186.40)	(23.05)	6.80	縦長方形		43	45.70	17.00	1.35	不定形	
2	(124.64)	(26.30)	8.25	三角形		44	68.60	17.41	2.85	縦長方形	
3	179.07	26.50	11.25	三角形		45	22.51	8.80	2.05	縦長方形	
4	(235.44)	(24.45)	8.85	台形		46	7.08	3.10	1.45	縦長方形	
5	(115.85)	11.15	9.40	正方形		47	8.27	3.40	1.30	縦長方形	
6	43.30	8.50	5.50	平行四辺形		48	8.01	—	—	不定形	
7	17.07	6.10	2.85			49	32.33	10.15	2.45	不定形	
8	19.86	—	—	不定形		50	117.02	16.75	3.65	不定形	
9	94.63	19.90	4.30	縦長方形		51	(182.09)	—	—		
10	(279.94)	18.00	16.15	五角形		52	(19.70)	—	5.05		
11	(70.45)	(11.00)	—	三角形		53	34.65	8.60	3.50	縦長方形	
12	(196.31)	—	10.00	三角形		54	(138.53)	20.10	(8.75)		
13	18.68	—	3.50	不定形		55	(20.64)	(6.25)	3.05		
14	31.26	—	—	不定形		56	270.01	21.75	11.60	横長方形	
15	27.97	8.0	—	三角形		57	232.26	15.30	14.70	台形	
16	(88.08)	(18.00)	(5.00)			58	242.82	31.25	7.70	不定形	
17	(294.01)	34.50	2.00			59	(255.19)	(30.50)	8.05		
18	(212.71)	34.60	5.55	縦長方形		60	(115.34)	—	(6.15)		
19	(320.23)	(33.95)	9.90	縦長方形		61	(251.71)	26.60	14.45	ひし形	
20	50.48	10.00	4.60	台形		62	41.92	8.15	4.40	平行四辺形	
21	10.91	7.50	2.00	不定形		63	321.81	19.95	17.30	五角形	
22	56.09	11.60	4.01	縦長方形		64	161.00	18.75	9.45	台形	
23	14.79	6.95	1.60	不定形		65	71.35	14.20	9.45	三角形	
24	(3.34)	(2.10)	2.00			66	179.61	22.05	7.60	横長方形	
25	(288.73)	35.00	5.60			67	109.15	19.20	5.00	横長方形	
26	73.05	11.55	6.50	縦長方形		68	119.91	17.50	6.00	横長方形	
27	50.24	14.05	2.05	不定形		69	296.71	21.90	13.60	台形	
28	44.84	9.00	4.90	不定形		70	(74.32)	—	—	三角形	
29	8.23	5.55	2.05	台形		71	(10.29)	—	6.05		
30	30.32	10.40	6.10	縦長方形		72	(144.86)	13.85	8.55		
31	36.94	9 50	1.75	不定形		73	(17.07)	(17.50)	(4.40)		
32	(35.87)	(10.00)	3.90			74	(6.46)	(5.50)	(1.25)		
33	11.49	—	1.65	不定形		75	(181.37)	(18.00)	10.75		
34	23.63	—	—	不定形		76	236.00	19.20	11.75	横長方形	
35	18.56	4.25	3.50	正方形		77	(70.00)	(13.70)	(4.55)	横長方形	
36	127.31	22.50	3.50	不定形		78	87.20	9.45	7.90	正方形	
37	97.03	—	—	不定形		79	(101.82)	13.65	(6.55)	縦長方形	
38	57.67	11.40	3.59	縦長方形		80	156.77	14.75	5.85	不定形	
39	12.25	6.10	3.15	三角形		81	(118.38)	11.55	(11.55)	扇形	
40	34.60	8.41	3.05	縦長方形		82	219.92	(18.55)	11.00	台形	
41	13.14	4.85	1.65	縦長方形		83	128.29	14.55	7.75	横長方形	
42	46.72	15.05	2.45	台形		84	72.35	11.40	3.35	台形	

番号	面積	長辺	短辺	形状	備考	番号	面積	長辺	短辺	形状	備考
85	(61.55)	(9.21)	5.70			127	88.28	9.45	8.70	正方形	
86	(99.99)	(17.50)	2.05			128	78.18	12.55	2.10	六角形	
87	(131.77)	(16.00)	(5.60)			129	30.29	10.00	3.45	不定形	
88	75.47	10.38	6.86	台形		130	88.12	9.45	8.25	正方形	
89	(44.41)	17.50	(5.50)			131	97.50	9.80	9.80	正方形	
90	(102.23)	(14.21)	6.50	横長方形		132	53.40	9.20	5.30	縦長方形	
91	77.26	8.99	7.78	正方形		133	147.04	16.80	6.25	台形	
92	94.98	13.95	6.00	横長方形		134	(62.93)	9.65	(7.50)		
93	42.23	8.35	4.75	横長方形		135	61.67	11.95	4.62	横長方形	
94	156.01	21.35	6.50	横長方形		136	(258.66)	18.90	12.82	縦長方形	
95	(350.20)	19.80	15.50	正方形		137	71.00	19.20	2.45	縦長方形	
96	287.66	23.95	4.95	不定形		138	131.98	17.20	6.45	縦長方形	
97	(373.13)	—	9.95	不定形		139	125.31	12.80	8.90	横長方形	
98	(134.20)	(15.00)	(6.95)			140	147.78	12.50	11.10	横長方形	
99	(133.00)	(19.95)	(15.90)			141	(78.41)	6.20	5.90	正方形	
100	(282.90)	19.00	14.20			142	82.95	9.10	8.60	正方形	
101	106.39	21.00	4.00	横長方形		143	(102.53)	10.40	9.30	縦長方形	
102	267.12	21.10	11.60	横長方形		144	175.31	14.80	10.80	縦長方形	
103	107.53	18.95	3.10	台形		145	212.53	16.60	10.50	台形	
104	(22.02)	8.00	4.75	三角形		146	(157.61)	16.40	(7.45)		
105	(57.16)	8.55	4.95	台形		147	73.14	9.55	6.80	横長方形	
106	79.64	11.45	6.30	台形		148	(72.86)	(11.00)	6.65		
107	(81.31)	8.60	8.35	正方形		149	(23.42)	(5.10)	(3.75)	縦長方形	
108	241.89	23.25	9.40	縦長方形		150	(207.37)	(20.50)	10.50		
109	91.85	10.35	8.05	正方形		151	(101.62)	(26.50)	3.55	縦長方形	
110	159.98	18.05	8.65	縦長方形		152	78.17	10.90	6.25	縦長方形	
111	96.48	20.40	4.35	縦長方形		153	(119.56)	(22.00)	4.85	縦長方形	
112	92.02	13.75	5.10	縦長方形		154	268.77	20.95	11.80	縦長方形	
113	125.86	10.95	10.05	不定形		155	116.07	11.25	6.05	縦長方形	
114	87.25	12.15	6.25	横長方形		156	78.06	(8.79)	(7.90)	正方形	
115	(2.08)	—	—			157	94.81	(10.75)	8.14	縦長方形	
116	29.80	7.90	2.75	横長方形		158	195.79	22.29	8.05	横長方形	
117	108.23	14.45	6.90	横長方形		159	177.83	13.45	11.98	横長方形	
118	(60.15)	20.00	(5.00)			160	(106.60)	(13.25)	8.15		
119	62.65	7.55	7.20	正方形		161	(82.60)	(13.25)	5.48		
120	35.21	7.10	4.25	縦長方形							
121	23.16	6.85	2.55	縦長方形							
122	93.19	11.80	6.65	縦長方形							
123	101.25	13.35	7.20	横長方形							
124	42.49	7.65	5.05	横長方形							
125	72.33	8.35	7.45	正方形							
126	53.53	13.30	3.20	縦長方形							

註）表の記載は以下の基準で行った。

① 水田面積の算出については1/250の面積図上でプラニメーター（ローラー極式・レンズ式）による3回計測平均値をしようした。なお、小数点以下3桁は四捨五入した。

② 水田の面積の単位は㎡、各辺の長さはmで、確認値は（ ）で示した。

Tab. 2　古墳、奈良・平安時代　土器観察表

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	挿図 Fig
1	H－1	土師坏	(10.9)	2.8	①細粒②極良③にぶい橙色④2/5	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	24
2	H－1	土師坏	(13.7)	4.7	①細粒②良好③にぶい橙色④1/2	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	24
3	H－1	土師甑	19.8	21.4	①粗粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	底部筒抜け。外面胴部篦削り、内面口縁部、胴部篦磨き。黒斑あり。	24
4	H－1	土師甕	(21.0)	35.9	①細・粗粒②良好③にぶい黄・黒褐色④4/5	外面胴部篦削り。内面篦ナデ。	24
5	H－1	土師甕	21.8	34.5	①細・粗粒②良好③にぶい橙色④1/2	外面胴部篦削り。内面篦ナデ。	24
6	H－2	土師坏	11.1	3.6	①細粒②良好③橙色④ほぼ完形	口縁部やや外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	24
7	H－2	土師坏	(12.4)	4.4	①細粒②良好③明赤褐色④3/4	口縁部内斜口縁。外面篦削り、指圧痕あり。内面ナデ。	24
8	H－2	土師坏	(12.4)	4.3	①細粒②良好③橙色④ほぼ完形	外面ナデ、篦削り。内面ナデ。	24
9	H－2	土師椀	(13.2)	9.8	①細粒②良好③淡赤橙色④口縁1/2欠損。	口縁部内傾。外面篦削り。内面ナデ。	24
10	H－2	土師甕	23.7	[16.7]	①細粒②良好③赤橙色④1/5	外面胴部篦削り。内面ナデ。	24
11	H－2	須恵甕	(11.9)	21.0	①細粒②極良③灰色④2/3	外面カキ目、平行叩き。内面轆轤調整、平行文。	24
12	H－2	土師甕	(20.8)	[23.8]	①細・粗粒②良好③にぶい橙色④1/3	外面胴部篦削り。内面篦ナデ	24
13	H－2	土師甕	20.5	32.3	①細・粗粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	外面篦削り。内面篦ナデ。	25
14	H－2	土師甕	—	[20.3]	①粗粒②良好③灰黄褐色④胴～底部2/3	胴部は球形状を呈す。外面胴部篦削り。内面篦ナデ。	25
15	H－2	土師甕	21.2	[20.0]	①細・粗粒②良好③橙色④1/3	外面篦削り。内面篦ナデ。	25
16	H－2	土師甕	(15.7)	[16.0]	①粗粒②良好③にぶい赤褐色④1/4	外面篦削り。内面篦ナデ。	25
17	H－2	土師甕	21.2	[19.6]	①細粒②良好③灰黄褐色④2/3	口縁端部が水平に近く開く。外面篦削り。内面篦ナデ。	25
18	H－2	土師甕	—	[28.9]	①細粒②良好③淡赤橙色④1/2	外面胴部篦削り。内面ナデ、篦削り。	25
19	H－3	土師坏	[11.8]	[4.0]	①細粒②良好③にぶい橙色④1/3	外面底部篦削り。内面横ナデ、ナデ。	25
20	H－3	土師坏	(11.4)	3.5	①細粒②良好③橙色④3/4	口縁部やや外反。外面横ナデ、篦削り。内面篦削り。	25
21	H－3	土師台付甕	—	[6.7]	①細粒②良好③にぶい橙色④脚部のみ1/2	外面底部横ナデ、篦削り。内面篦削り。	26
22	H－3	土師坏	(10.8)	3.8	①細粒②良好③橙色④1/2	口縁部やや外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	26
23	H－3	須恵坏	(11.6)	4.3	①細粒②良好③灰白色④3/4	口縁部やや外傾。外面底部篦削り、轆轤。内面篦削り。	26
24	H－4	土師甕	21.2	[28.5]	①細・粗粒②良好③にぶい橙色④底部欠損	外面篦削り。内面篦ナデ。	26
25	H－4	土師甕	22.0	37.7	①細・粗粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	外面胴部篦削り。内面篦ナデ。	26
26	H－4	土師甕	21.2	(38.8)	①粗粒②良好③にぶい橙色④底部欠損	外面篦削り。内面篦ナデ。	26
27	H－4	土師甕	21.6	(32.6)	①細・粗粒②良好③にぶい橙色④底部欠損	外面胴部篦削り。内面篦ナデ。	26
28	H－4	土師坏	(11.2)	3.1	①細粒②良好③赤橙色④3/4	口縁部やや外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	26
29	H－4	土師坏	(11.6)	4.0	①細粒②良好③橙色④4/5	口縁部やや外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	26
30	H－4	土師坏	12.0	3.8	①細粒②良好③橙色④完形	口縁部外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	26
31	H－4	土師坏	(12.4)	4.4	①細粒②良好③赤橙色④3/4	口縁部外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	26
32	H－4	土師坏	(11.1)	3.8	①細粒②良好③橙色④4/5	口縁部やや外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	26
33	H－4	土師甕	20.8	[28.0]	①細・粗粒②良好③にぶい橙色④1/2	外面篦削り。内面篦ナデ。	26
34	H－5	土師坏	(11.4)	4.0	①細粒②良好③にぶい橙色④1/2	口縁部やや外傾。外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面篦削り。	26
35	H－5	紡錘車	《直径4.0 内径0.7 厚さ1.7 重さ35.4》			頁岩。周辺調整は縦方向になされる。	26
36	H－6	土師甕	19.0	[23.3]	①細・粗粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	外面胴部刷毛目の後篦磨き、下位はナデ。内面胴部刷毛目。	27
37	H－6	土師甕	(17.0)	(35.5)	①細粒②良好③淡赤橙色④1/3	外面底部から胴部篦削り、刷毛目。内面刷毛目、篦削り、ナデ。	27
38	H－6	土師坏	13.2	7.0	①細・粗粒②不良③明赤灰色④ほぼ完形	口縁部素縁口縁。外面篦削り。内面、ナデ。	27
39	H－6	土師坏	(14.4)	5.5	①細・粗粒②極良③赤色④1/2	口縁部内斜口縁。外面篦削り。内面放射状暗紋。	27
40	H－6	土師甕	16.8	(28.4)	①細・粗粒②良好③浅黄橙色④3/4	外面篦削り、ナデ。内面篦ナデ。	27
41	H－7	台付鉢	(10.3)	(9.6)	①細・粗粒②不良③にぶい橙色④胴部3/4脚部1/3	口縁部素縁口縁。外面篦削り。内面ナデ。	27
42	H－7	土師甕	(20.7)	35.5	①細・粗粒②良好③にぶい黄橙色・黒褐色④4/5	外面篦削り。内面篦ナデ。	27
43	H－7	土師甕	(17.4)	26.1	①粗粒②良好③黄灰色④口縁・胴部の一部欠損	器形の歪み顕著。器肉厚手。外面篦削り。内面篦ナデ。	27
44	H－7	土師甕	(19.5)	22.7	①細・粗粒②良好③にぶい橙色④3/4	外面細かい単位のえぐるような篦ナデで器面の凹凸が著しい。内面篦ナデ。	27
45	H－7	土師甑	(21.4)	17.3	①細粒②良好③にぶい黄橙色④4/5	鉢状に開く。底部筒抜け。外面胴部篦磨き、所々に輪積痕残る。内面篦磨き。	28
46	H－7	須恵蓋	(13.3)	[5.1]	①細粒②極良③灰白色④取っ手部欠損	轆轤。	28
47	H－11	土師高坏	—	[10.6]	①細粒②良好③にぶい橙色④脚部のみ2/3	外面底部横ナデ、篦削り。内面篦削り。	28
48	H－11	土師甕	(15.8)	[11.7]	①細粒②良好③橙色④1/4	外面頸部から胴部篦削り。ナデ篦ナデ。	28
49	H－11	土師椀	[14.3]	[8.8]	①細粒②良好③にぶい橙色④1/2	外面底部篦削り。内面篦削り。	28
50	H－11	土師甑	—	[21.0]	①細・粗粒②良好③橙色④2/3	底部筒抜け。外面胴部ナデ。内面篦ナデ後、粗い篦磨き。	28
51	H－11	土師坏	(14.7)	4.2	①細粒②良好③橙色④ほぼ完形	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	28
52	H－11	土師坏	(14.1)	7.2	①細粒②極良③橙色④3/4	口縁部内斜口縁。外面横ナデ。内面放射状暗紋。	28
53	H－11	土師小甕	12.4	9.0	①細粒②良好③淡赤橙色④ほぼ完形	口縁部やや外傾。外面底部篦削り。内面篦削り。	28
54	W－1	須恵坏	(13.2)	3.0	①細粒②良好③灰白色④1/3	轆轤。底部回転糸切り痕。	28

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	挿図 Fig
55	W－1	土師坏	(12.0)	3.5	①細粒②良好③橙色④3/4	口縁部外傾。外面篦削り。内面ナデ。	28
56	W－1	土師坏	(12.5)	3.3	①細粒②良好③にぶい赤橙色④3/4	口縁部外傾。外面横ナデ、削り。内面ナデ。	28
57	W－10	土師坩	(9.1)	(7.7)	①細粒②良好③赤橙色④3/5	口縁部外傾。外面頸部刷毛目、胴部篦削り。内面ナデ。	28
58	W—10	土師甕	(16.5)	26.5	①細粒②良好③にぶい黄褐色④3/4	外面胴部刷毛目後、粗い篦磨き、底部篦削り。内面篦ナデ。	28
59	W－10	土師甕	(13.2)	(17.1)	①細粒②良好③灰赤色④1/2	外面頸部から胴部刷毛目。内面刷毛目。	28
60	W－10	土師高坏	(15.3)	[7.4]	①細粒②良好③赤橙色④坏部のみ1/2	口縁部外傾。外面篦削り。内面篦磨き。	28
61	W－10	土師椀	(11.2)	5.4	①細粒②良好③淡黄色④1/2	口縁部外傾。外面横ナデ、篦削り。内面篦磨き。	28
62	W－10	土師坩	(13.0)	(15.5)	①細粒②極良③橙色④ほぼ完形	口縁部外傾。外面頸部刷毛目、胴部篦削り。ナデ口縁部篦削り。	28
63	W－10	土師甕	[27.2]	[17.0]	①細・粗粒②良好③にぶい橙色④1/3	外面胴部篦削り。内面篦削り。	29
64	W－10	土師甑	－	[24.5]	①細粒②良好③灰赤色④1/2	外面底部篦削り、胴部刷毛目。内面底部篦磨き、胴部ナデ、口縁部刷毛目。	29
65	W－11	土師高坏	(19.0)	(13.8)	①細粒②良好③橙色④1/4	外面脚部から底部にかけて刷毛目。内面	29
66	W－11	土師小鉢	19.08	(5.5)	①細粒②良好③にぶい橙色④1/4	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
67	W－11	土師坏	(17.7)	5.0	①細粒②良好③にぶい橙色④3/4	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
68	W－11	土師坏	(18.0)	7.0	①細粒②良好③にぶい橙色④2/3	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
69	W－11	須恵坏	13.8	2.4	①細粒②良好③灰白色④ほぼ完形	口縁部外傾。轆轤。底部回転篦削り	29
70	W－11	須恵壺	[10.4]	[9.7]	①細粒②良好③灰色④1/3	口縁部から胴部横ナデ、底部篦削り。内面ナデ。	29
71	W－11	土師坏	(15.0)	4.9	①細粒②良好③にぶい橙色④1/2	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
72	W－11	土師坏	(14.1)	4.2	①細粒②良好③赤橙色④1/2	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
73	W－11	土師坏	(13.0)	3.5	①細粒②良好③明赤褐色④1/2	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
74	W－11	土師坏	(12.8)	2.7	①細粒②良好③にぶい橙色④4/5	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
75	W－11	土師坏	(13.2)	3.2	①細粒②良好③にぶい赤橙色④3/5	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。指圧痕あり。内面ナデ。	29
76	W－11	土師坏	(14.9)	(4.0)	①細粒②良好③にぶい赤橙色④1/4	口縁部やや外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
77	W－11	土師坏	(14.6)	3.6	①細粒②良好③橙色④1/2	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
78	W－11	土師坏	(14.4)	4.4	①細粒②良好③橙色④1/2	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
79	W－11	土師坏	(13.0)	3.0	①細粒②良好③にぶい赤褐色④1/3	口縁部外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
80	W－11	土師坏	(13.0)	3.4	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
81	W－11	土師坏	(14.1)	(2.9)	①細粒②良好③にぶい橙色④1/4	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	29
82	W－11	土師坏	12.6	3.7	①細粒②良好③橙色④4/5	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
83	W－11	土師坏	(12.4)	3.6	①細粒②良好③赤褐色④3/4	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
84	W－11	土師坏	(14.4)	3.5	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	口縁部やや外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
85	W－11	土師坏	(14.4)	4.0	①細粒②良好③橙色④4/5	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
86	W－11	土師坏	(12.7)	3.7	①細粒②良好③にぶい橙色④3/4	口縁部外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
87	W－11	土師坏	(15.1)	3.7	①細粒②良好③橙色④1/2	口縁部外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
88	W－11	土師坏	(14.2)	3.4	①細粒②良好③橙色④2/3	口縁部外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
89	W－11	土師坏	(13.3)	3.1	①細粒②良好③にぶい赤褐色④3/4	口縁部やや外傾。外傾横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
90	W－11	土師坏	(13.2)	3.1	①細粒②良好③淡赤橙色④3/4	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
91	W－11	土師坏	(12.9)	3.7	①細粒②良好③にぶい橙色④3/4	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
92	W－11	土師坏	(13.0)	(2.8)	①細粒②良好③にぶい赤褐色④1/4	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
93	W－12	須恵坏	(14.2)	3.9	①細粒②極良③灰白色④1/3	口縁部外傾。轆轤。底部回転篦削り。	30
94	W－13	土師坏	(15.9)	5.0	①細粒②良好③橙色④1/2	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
95	R－1	土師坏	(12.6)	3.4	①細粒②良好③にぶい赤褐色④1/2	口縁部外傾。外面横ナデ、底部篦削り。内面ナデ。	30
96	X54・Y61	土師坏	(11.9)	4.1	①細粒②良好③にぶい橙色④3/5	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
97	X73・Y28	土師甕	－	－	①細粒②良好③赤褐色④底部のみ残存	外面底部から胴部刷毛目。内面篦磨き。底部に葉脈痕あり。	30
98	X54・Y47	須恵坏	[12.3]	4.0	①細粒②極良③褐灰色④1/2	口縁部外傾。轆轤。底部回転糸切り痕。	30
99	X76・Y32	土師高坏	－	[11.0]	①細粒②良好③にぶい橙色④脚部のみ2/3	外面底部横ナデ、篦磨き、刷毛目。内面ナデ、篦削り、絞り。	30
100	X47・Y58	土師甕	(19.0)	[14.1]	①細粒②良好③にぶい橙色④1/6	外面胴部篦磨き。内面篦磨き、篦削り。	30
101	X74・Y27	土師植木鉢	(12.8)	6.9	①細粒②極良③にぶい赤褐色④1/4	口縁部外傾。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
102	X65・Y30	土師甕	(15.7)	22.5	①細粒②不良③にぶい橙色④1/2	口縁部横ナデ、外面全体篦削り。内面刷毛目、篦削り、ナデ。	30
103	X46・Y63	土師壺	8.4	[8.2]	①細粒②極良③橙色④口縁部から頸部のみ3/4	口縁部外傾、外面横ナデ、篦磨き。内面篦磨き。	30
104	X73・Y28	土師坏	(11.9)	3.9	①細粒②良好③にぶい橙色④3/4	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30
105	表採	土師坏	(13.4)	3.6	①細粒②良好③橙色④1/4	口縁部直立。外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	30

註）1．胎土は細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm）、粗粒（2.0mm以上）とした。

2．焼成は極良・良好・不良の3段階評価。

3．色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原1976）によった。

4．大きさ、重さの単位はそれぞれcm、gであり、現存値を[ ]、復元値を( )で示した。

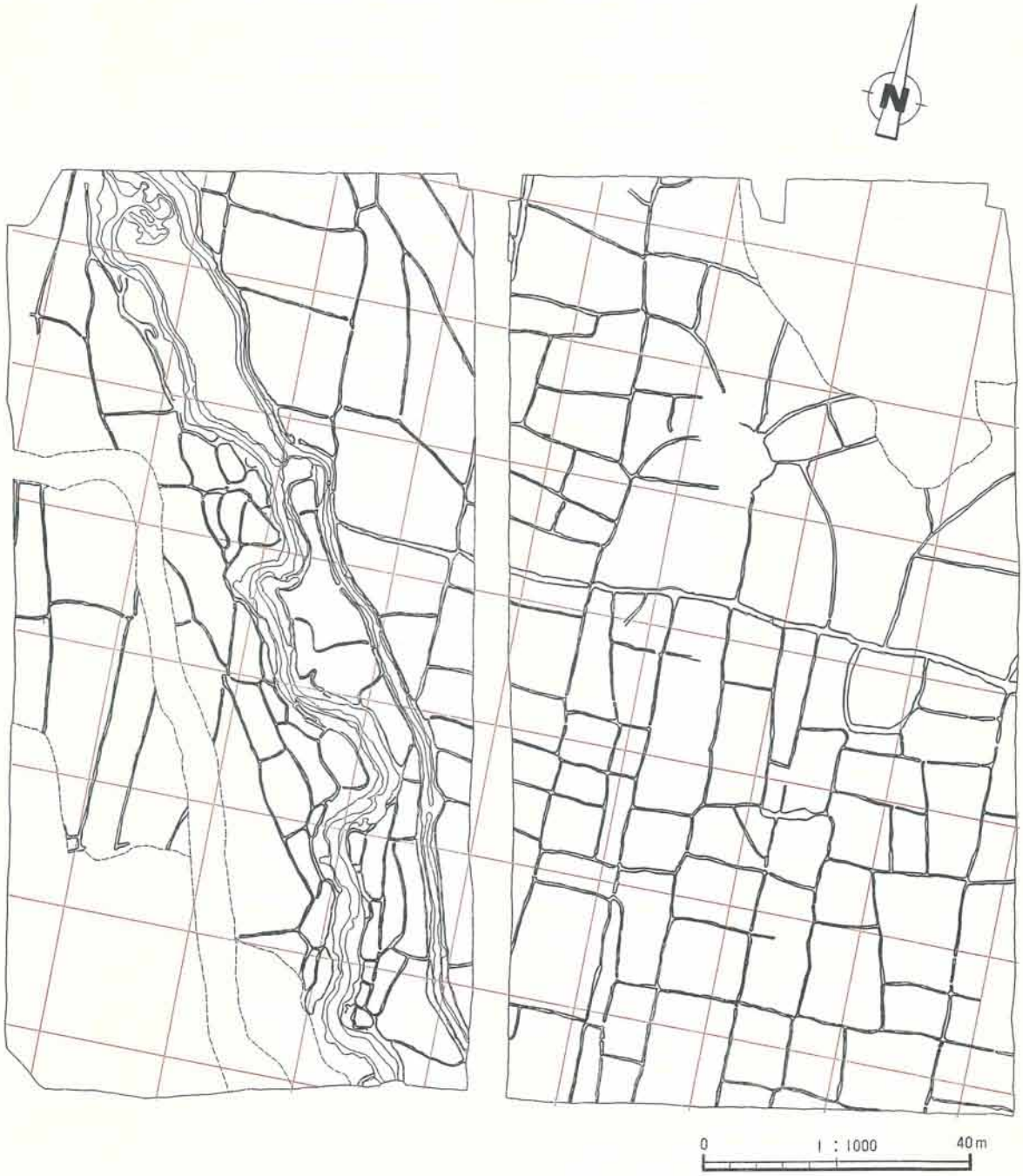


Fig.10　中原遺跡群Ⅳ A・B区水田址グリッド図

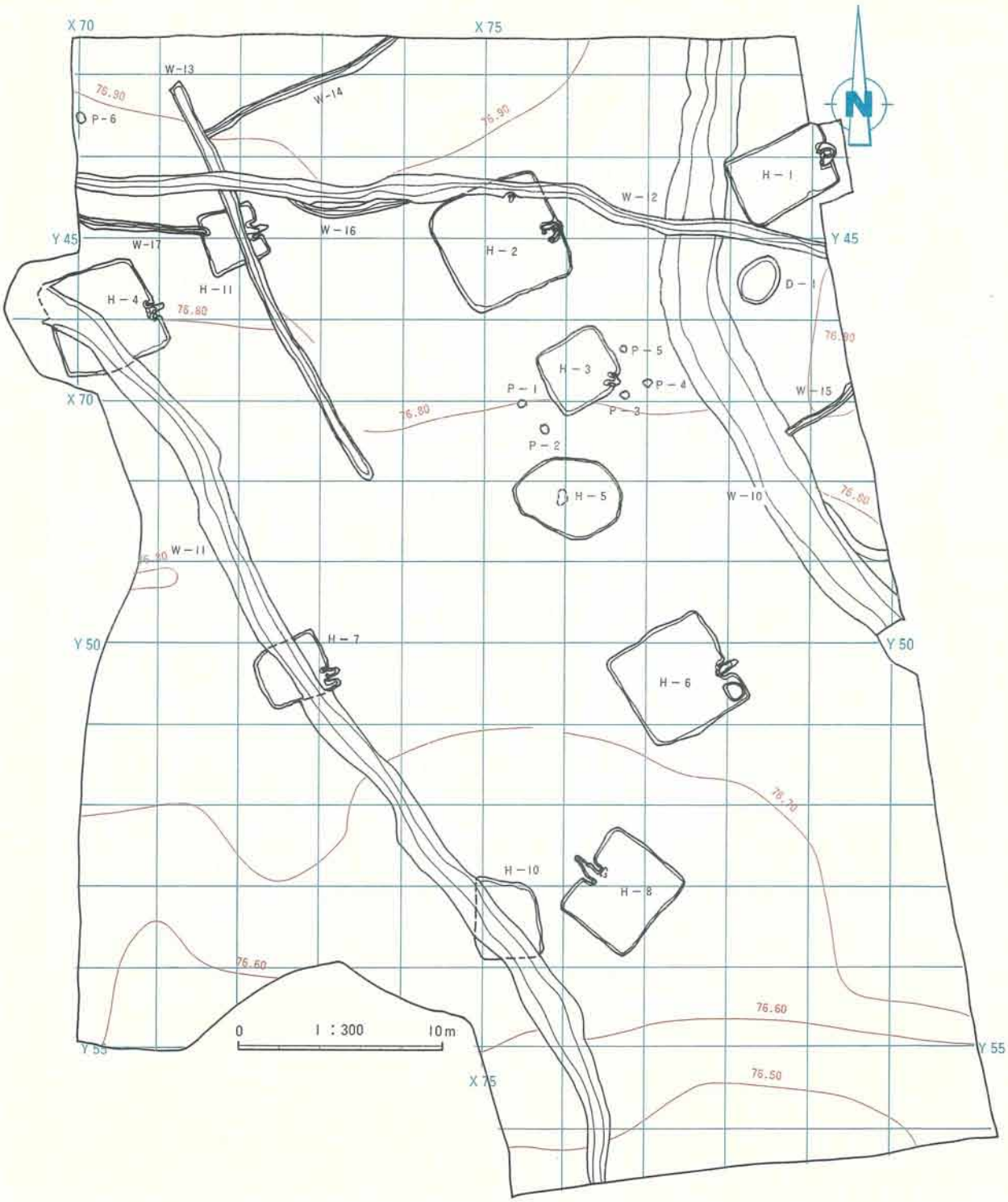


Fig.11　中原遺跡群ⅣC区全体図

水田陥没帯

Fig.12　中原遺跡群Ⅳ　A・B区水田址平面図

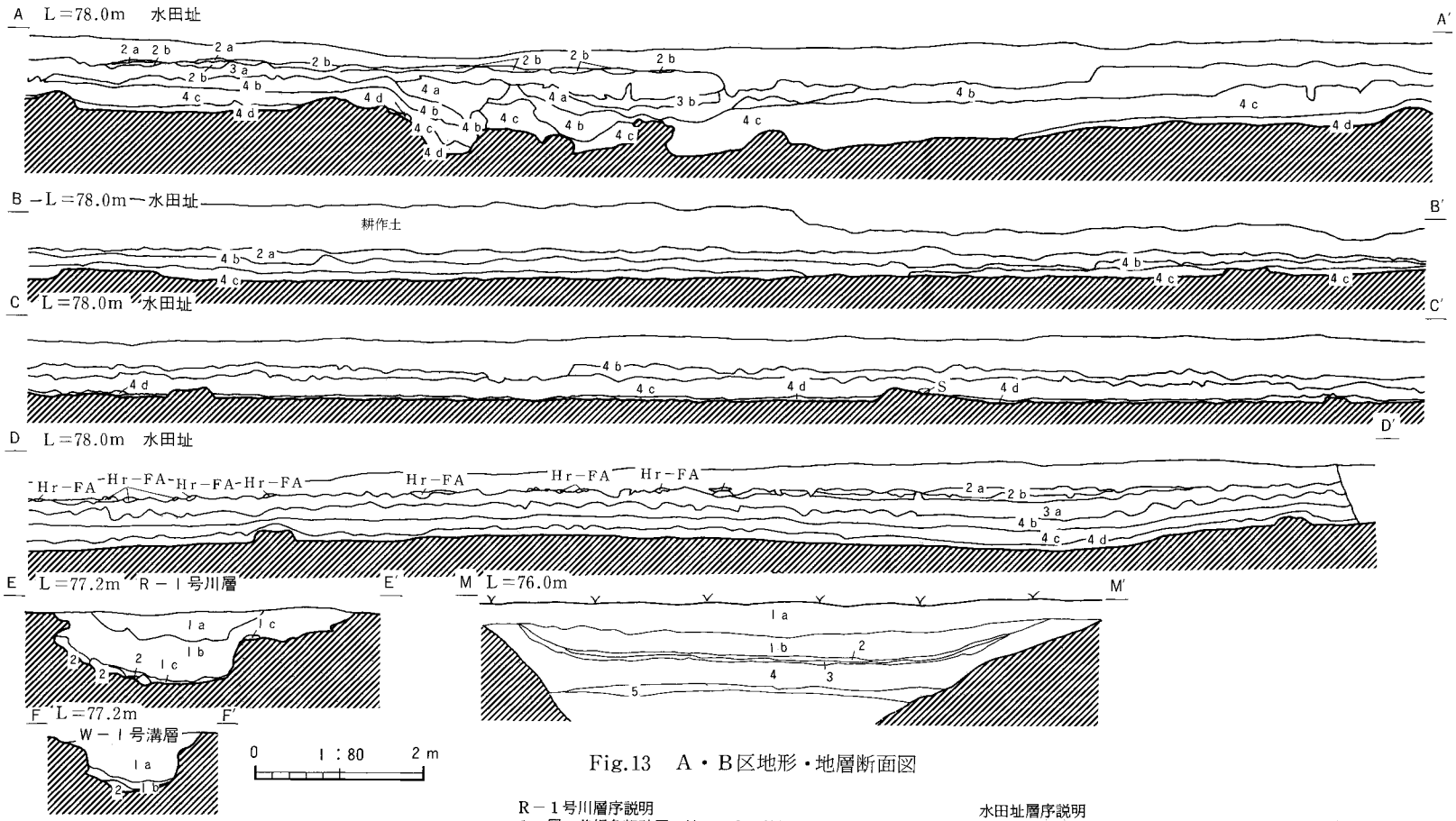


Fig.13 A・B区地形・地層断面図

B区5トレ西側セクション
1a層 暗褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 水田下の耕作土。
1b層 褐色微砂層 締まり○ 粘性○ Hr-FAブロックを含む。
2 層 褐灰色微砂層 締まり○ 粘性◎ 平行葉理のある水底堆積。
3 層 黒褐色細砂層 締まり○ 粘性× Hr-FA。
4 層 橙色微砂層 締まり× 粘性◎ 泥炭質の粘土。
5 層 褐灰色粗砂層 締まり× 粘性×川砂円礫を多量に含む。

R－1号川層序説明
1a層 黄褐色粗砂層 締まり○ 粘性× 洪水層上部。
1b層 黄褐色粗砂層 締まり○ 粘性× 洪水層中部。
1c層 黄褐色粗砂層 締まり○ 粘性× 洪水層下部。
2 層 褐色砂層 締まり× 粘性× 川底の砂礫層。

W－1号溝層序説明
1a層 黄褐色粗砂層 締まり○ 粘性× 洪水層中部。
1b層 にぶい橙色細砂層 締まり○ 粘性× 洪水層下部。
2 層 にぶい黄褐色粗砂層 締まり× 粘性× 川底の砂層。

水田址層序説明
1 層 黄褐色細砂層 締まり○ 粘性△ 耕作土。
2a層 にぶい赤褐色微砂層 締まり○ 粘性△
2b層 明赤褐色粗砂層 締まり× 粘性× As-B純層
3a層 暗褐色粗砂層 締まり△ 粘性× 軽石円礫を含む。
3b層 明黄褐色微砂層 締まり○ 粘性× 沼地の堆積物。
4a層 にぶい黄橙色粗砂層 締まり○ 粘性× 軽石80%、斜交葉理有り。
4b層 黄橙色粗砂層 締まり△ 粘性× 洪水層 軽石円礫を含む。
4c層 にぶい黄橙色粗砂層 締まり○ 粘性× 〃 軽石・円礫から成る。
4d層 にぶい黄橙色粗砂層 締まり△ 粘性× 〃 軽石の小円礫を含む。

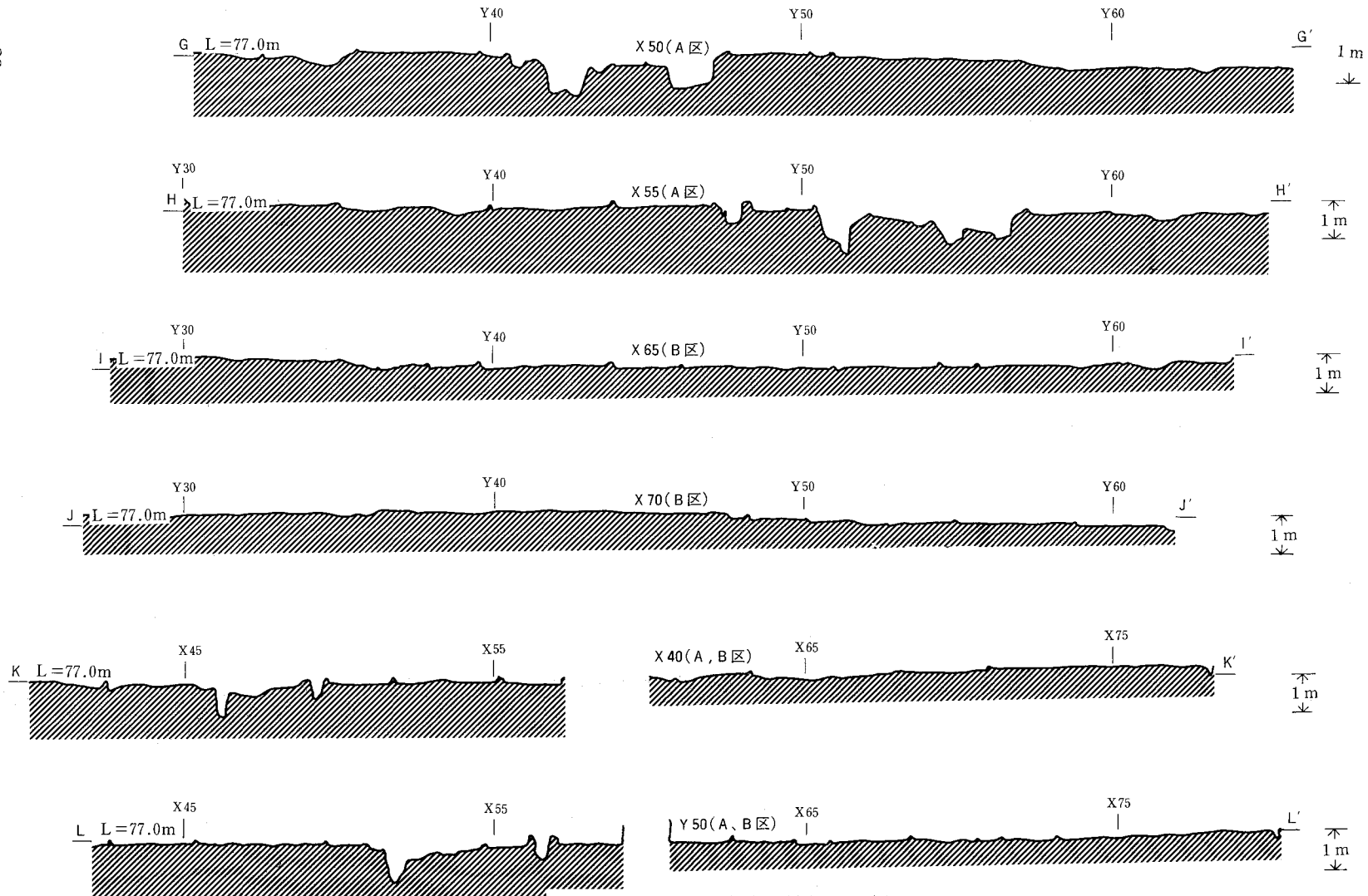


Fig.14 A・B区地形・地層断面図(2)

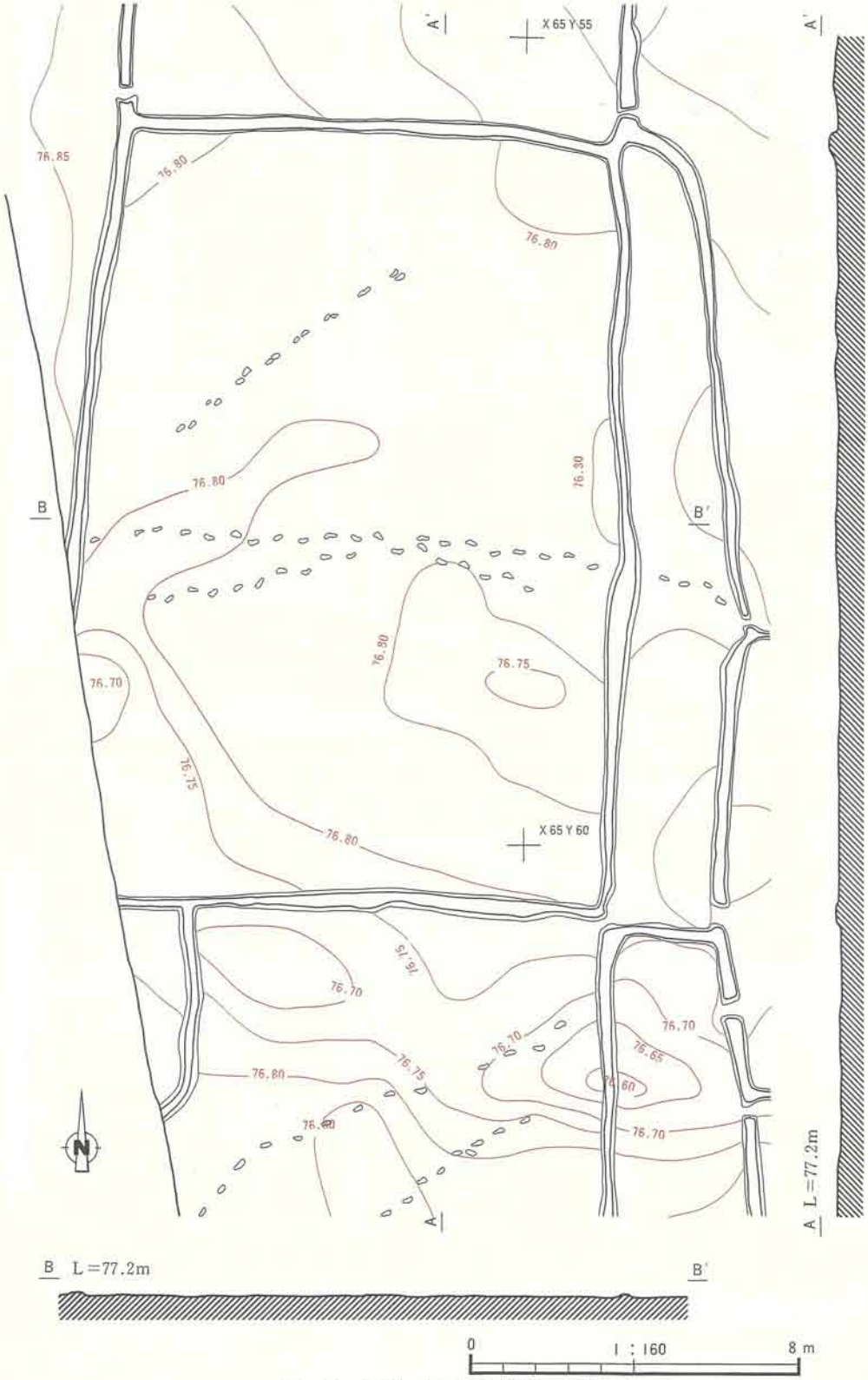


Fig.15　B区　水田址平面図　足跡

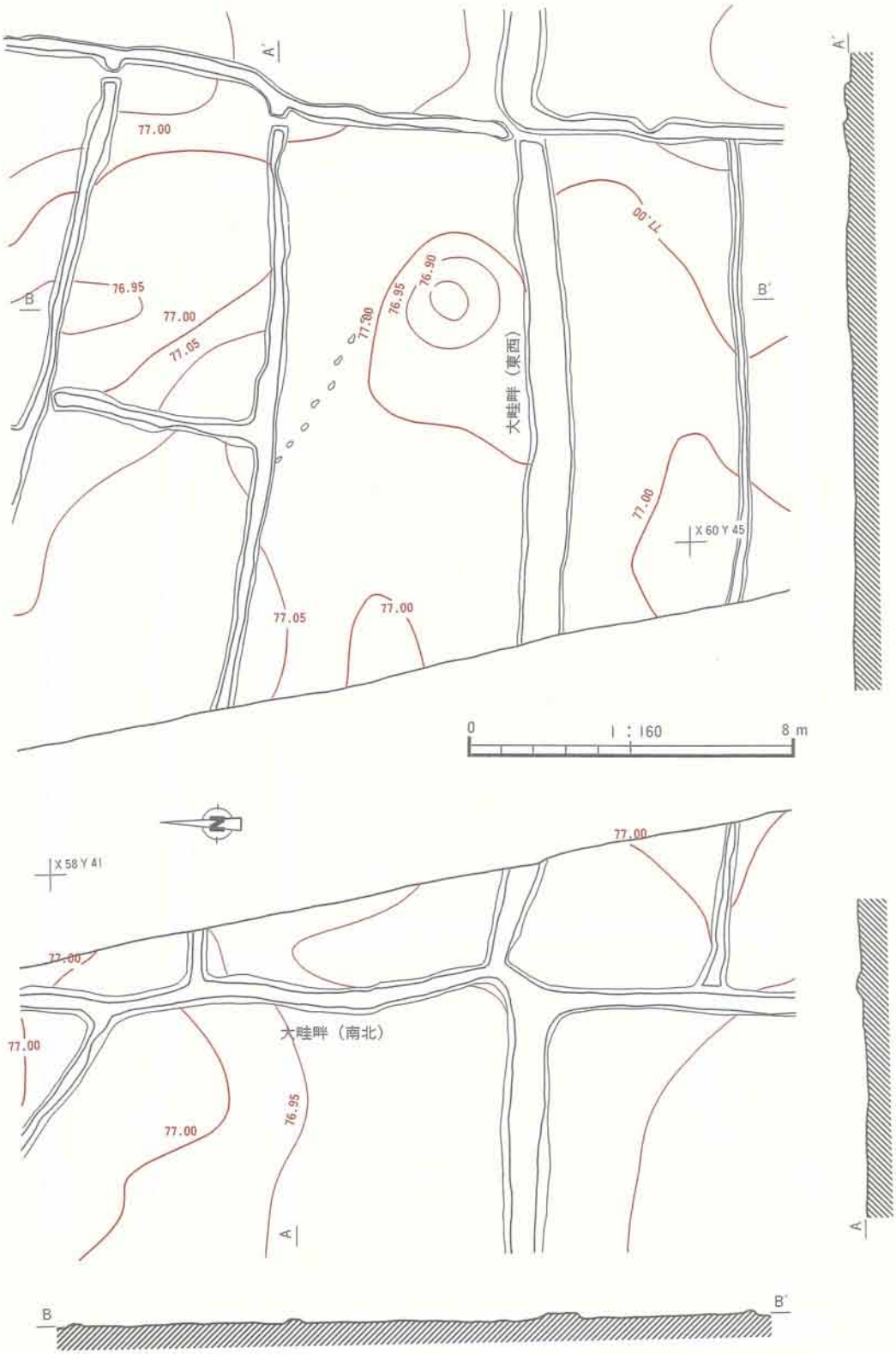
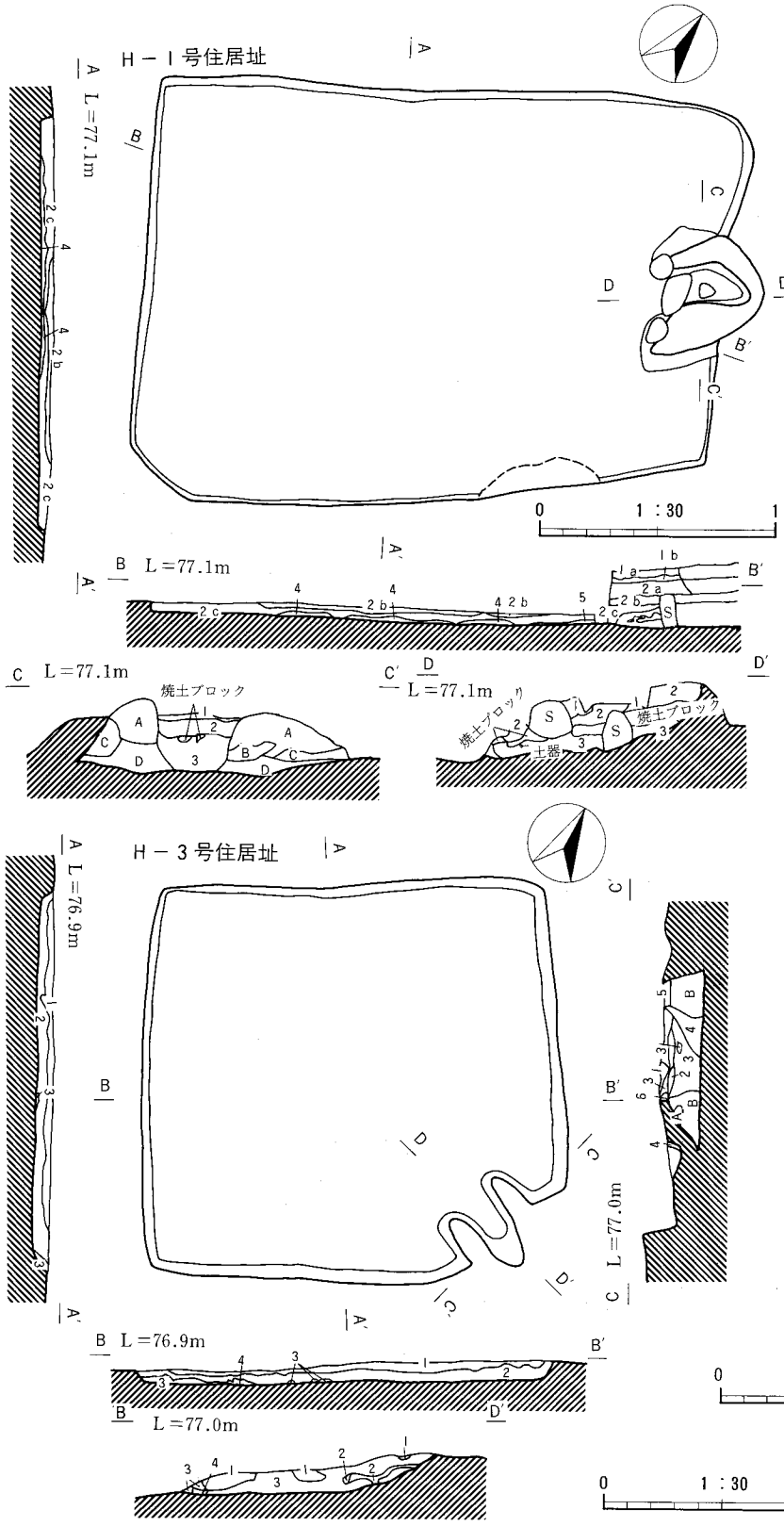


Fig.16　B区　水田址平面図　大畦畔



H－1号住居址

1a層　黄褐色細砂層　締まり○　粘性×　洪水層。
1b層　黄褐色粗砂層　締まり○　粘性×　洪水層（軽石を20～30%含む）。
2a層　にぶい黄褐色微砂層　締まり○　粘性△。
2b層　にぶい黄褐色微砂層　締まり△　粘性○　焼土粒を微量に含む。
2c層　にぶい黄褐色微砂層　締まり△　粘性○　焼土粒を微量に含む。
3a層　にぶい黄褐色微砂層　締まり○　粘性○　焼土粒、灰土を含む。
3b層　にぶい黄橙微砂層　締まり○　粘性○　灰土。
4　層　灰黄褐色微砂層　締まり○　粘性○　灰、炭、焼土粒を含む。
5　層　灰黄褐色微砂層　締まり○　粘性○　焼土、粘土を含む。

H－1号住居址竈

1　層　暗赤褐色細砂層　締まり○　粘性○　FA5%。
2　層　明赤褐色微砂層　締まり○　粘性○　焼土粒（5mm～20mm）15%、粘土中心。
3　層　褐灰色微砂層　締まり○　粘性△　灰中心、焼土粒極少。

H－1号住居址竈袖

A　層　褐色微砂層　締まり○　粘性○　FA5～7%、黒色土。
B　層　橙色微砂層　締まり○　粘性○　黒色土と焼土のまじり、焼土70～80%。
C　層　明黄褐色微砂層　締まり○　粘性○　粘土。
D　層　暗褐色微砂層　締まり○　粘性○　黒色土。

0 1：60 2m

H－3号住居址

1　層　にぶい黄褐色微砂層　締まり○　粘性△。
2　層　にぶい黄褐色微砂層　締まり○　粘性○。
3　層　にぶい黄褐色細砂層　締まり×　粘性×。
4　層　褐色細砂層　締まり×　粘性×。

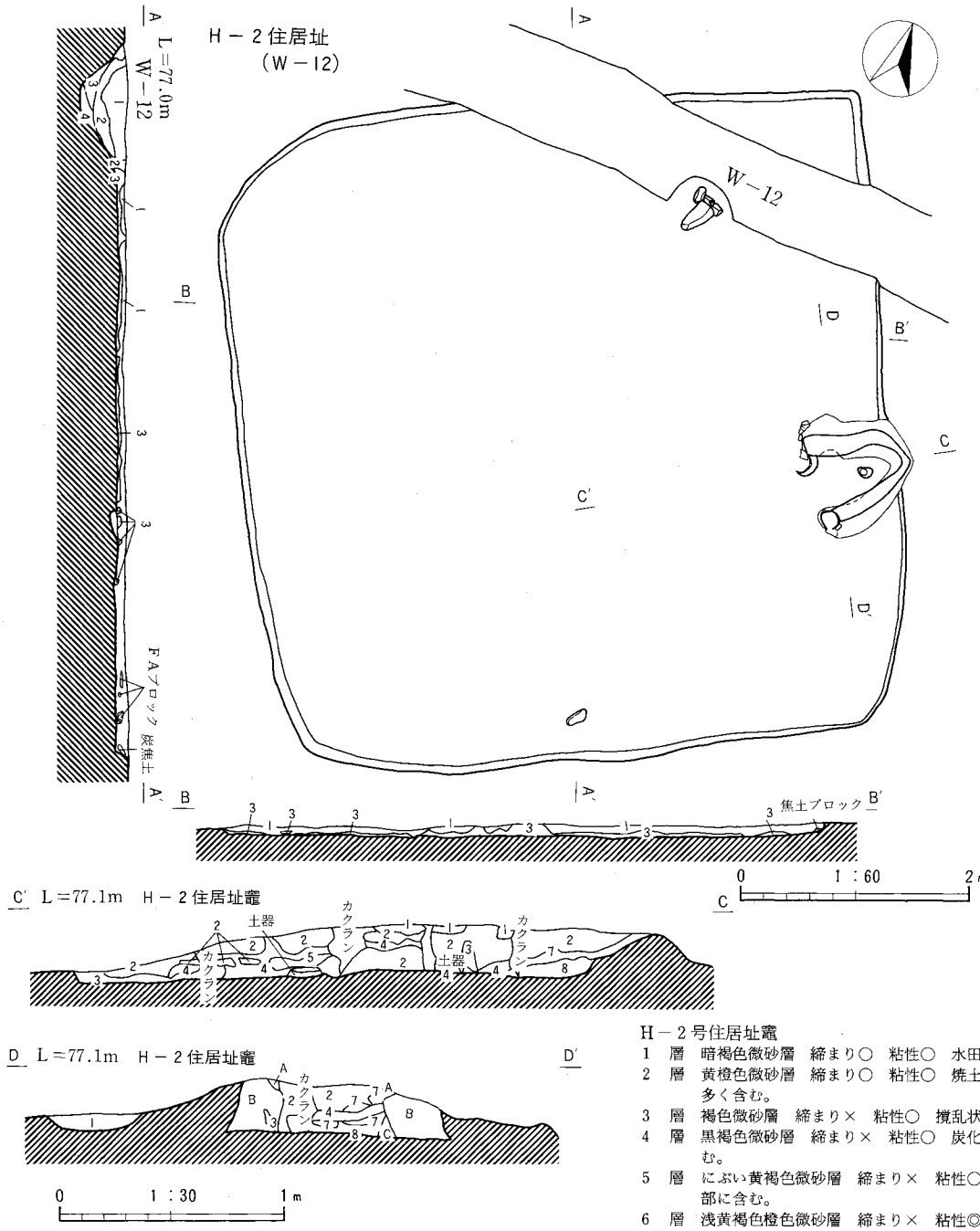
H－3号住居址竈

1　層　橙色微砂層　締まり○　粘性○　粘土。
2　層　黒褐色微砂層　締まり×　粘性○　炭化。
3　層　にぶい黄褐色細砂層　締まり×　粘性○　焼土1～2%含む。
4　層　にぶい橙色微砂層　締まり×　粘性○。
5　層　褐色微砂層　締まり△　粘性○　黒色土。
6　層　黄橙色微砂層　締まり△　粘性○　粘土。
7　層　褐灰色微砂層　締まり×　粘性○。

H－3号住居址竈袖

A　層　黄橙色微砂層　締まり○　粘性○　粘土。
B　層　暗褐色微砂層　締まり○　粘性○　黒色土。
C　層　黄褐色細砂層　締まり△　粘性×　黒色土、砂層。

Fig.17　H－1・3号　住居址



H－2号住居址 (W－12)

1 層 暗褐色細砂層 締まり△ 粘性△ 白い軽石(FA)まばらに含む。
2 層 暗褐色細砂層 締まり○ 粘性○
3 層 黄褐色細砂層 締まり△ 粘性× ほとんど砂層。
4 層 暗褐色細砂層 締まり△ 粘性△ ほとんど砂層。

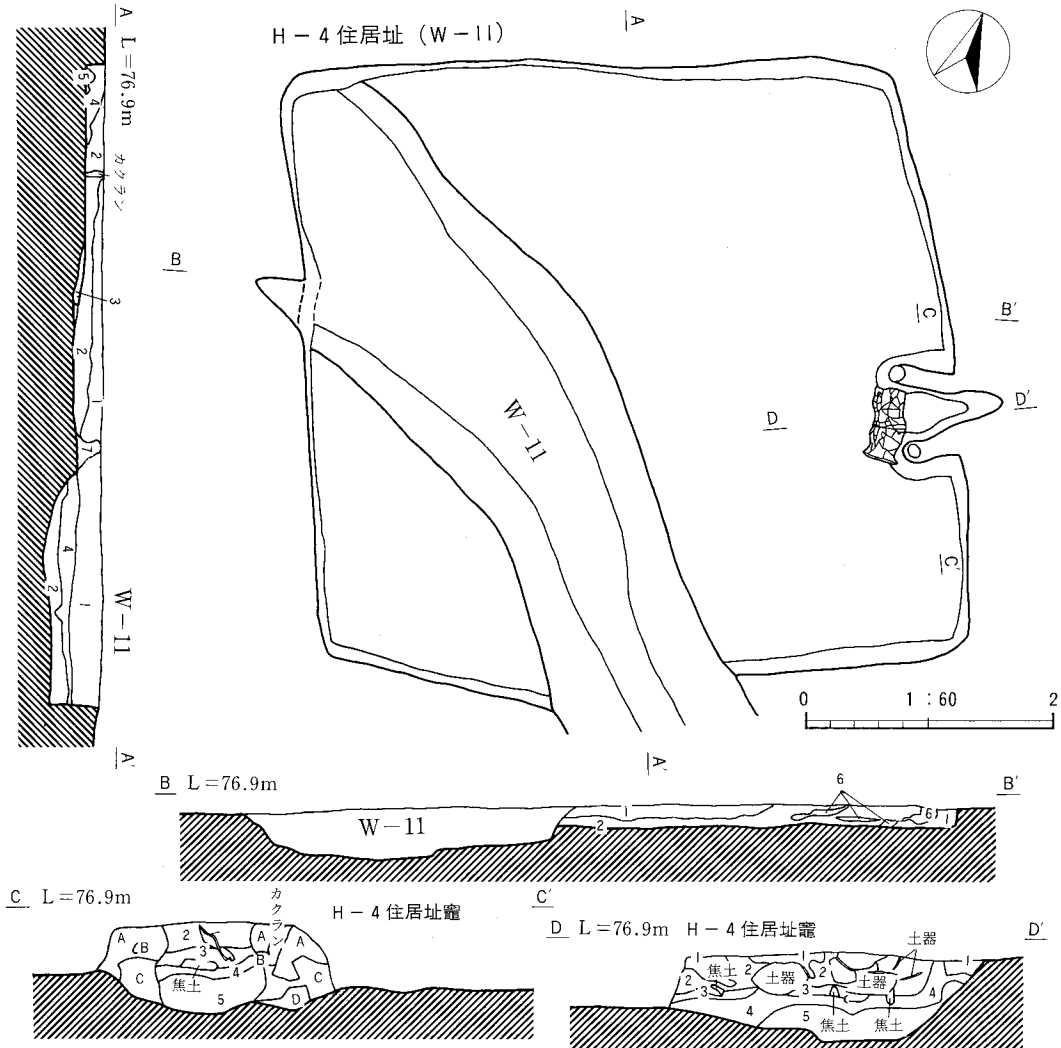
H－2号住居址竈

1 層 暗褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 水田下の土。
2 層 黄橙色微砂層 締まり○ 粘性○ 焼土ブロックを多く含む。
3 層 褐色微砂層 締まり× 粘性○ 攪乱状。
4 層 黒褐色微砂層 締まり× 粘性○ 炭化した灰を含む。
5 層 にぶい黄褐色微砂層 締まり× 粘性○ 焼土を一部に含む。
6 層 浅黄褐色橙色微砂層 締まり× 粘性◎ 粘土。
7 層 明赤褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 焼土。
8 層 橙色微砂層 締まり○ 粘性○ 焼土 (灰)。

H－2号住居址竈袖

A 層 橙色微砂層 締まり○ 粘性○ 粘土やや焼けている。
B 層 橙色微砂層 締まり○ 粘性○ 粘土。
C 層 明赤褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 焼土と黒色土の交じり、焼土ブロック70～80%。

Fig.18 H－2号住居址



H－4号住居址

1 層 褐色微砂層 締まり○ 粘性△ 白色軽石2～3％。
2 層 にぶい黄褐色微砂層 締まり○ 粘性× 白色軽石1～2％。
3 層 明黄褐色細砂層 締まり× 粘性× 砂層。
4 層 褐色微砂層 締まり○ 粘性△。
5 層 にぶい黄褐色細砂層 締まり× 粘性× 砂層。
6 層 黄橙色微砂層 締まり× 粘性○ 粘土層、焼土粒を含む。
7 層 にぶい黄橙色細砂層 締まり× 粘性× 噴砂。

H－4号住居址竈

1 層 にぶい黄褐色微砂層 締まり△ 粘性○。
2 層 明黄褐色微砂層 締まり△ 粘性○ 粘土。
3 層 灰黄褐色微砂層 締まり× 粘性△ 焼土5％、炭5％、灰わずか。
4 層 暗褐色微砂層 締まり△ 粘性△ 焼土10％、炭20％、灰30％。
5 層 黄褐色微砂層 締まり× 粘性 灰多量。

H－4号住居址竈袖

A 層 橙色微砂層 締まり○ 粘性○ 粘土。
B 層 明赤褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 焼土、炭化。
C 層 褐色微砂層 締まり× 粘性○ 黒色土に焼土ブロック20～25％を含む。
D 層 褐色微砂層 締まり× 粘性○ 粘土の黒色土の交じり。

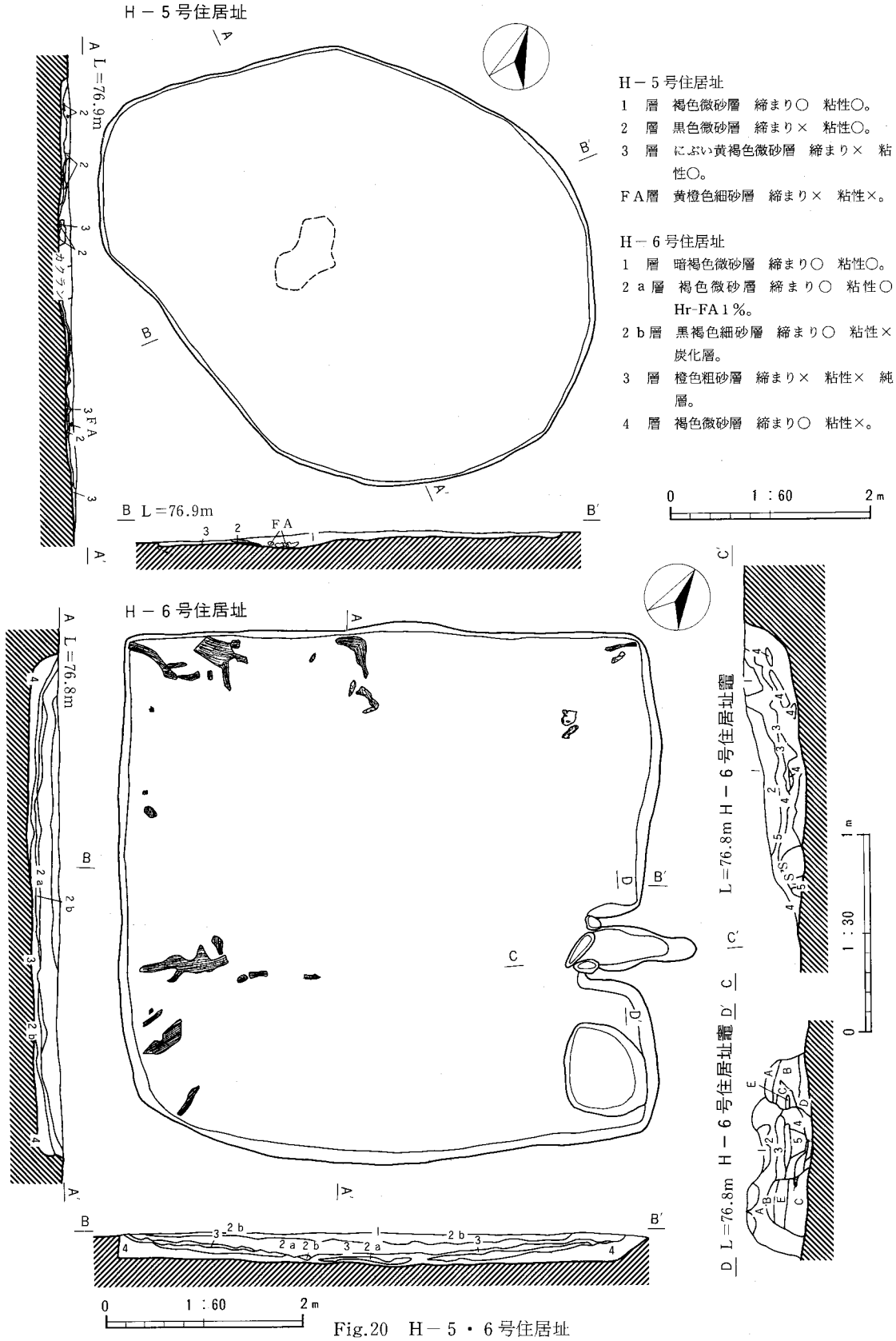
H－6号住居址竈

1 層 褐色微砂層 締まり× 粘性○。
2 層 褐色微砂層 締まり× 粘性○ 焼土粒混入。
3 層 黄橙色微砂層 締まり× 粘性○ 粘土。
4 層 黒褐色微砂層 締まり× 粘性○ 炭化。
5 層 にぶい黄橙色微砂層 締まり× 粘性○ 粘土（焼土粒を含む）。

H－6号住居址竈袖

A 層 暗褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 黒色土。
B 層 褐色微砂層 締まり○ 粘性× 黒色土。
C 層 黄褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 黒色土と粘土の交じり。
D 層 明褐色微砂層 締まり△ 粘性○ 黒色土と焼土の交じり。
E 層 明赤褐色微砂層 締まり△ 粘性○ 焼土。

Fig.19 H－4住居址



H－5号住居址

1　層　褐色微砂層　締まり○　粘性○。

2　層　黒色微砂層　締まり×　粘性○。

3　層　にぶい黄褐色微砂層　締まり×　粘性○。

FA層　黄橙色細砂層　締まり×　粘性×。

H－6号住居址

1　層　暗褐色微砂層　締まり○　粘性○。

2a層　褐色微砂層　締まり○　粘性○　Hr-FA 1％。

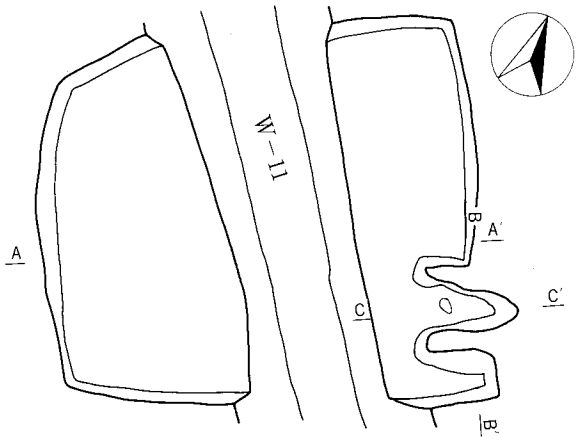
2b層　黒褐色細砂層　締まり○　粘性×　炭化層。

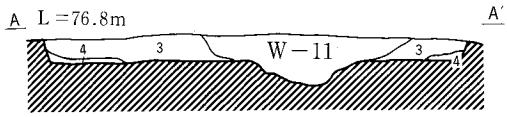
3　層　橙色粗砂層　締まり×　粘性×　純層。

4　層　褐色微砂層　締まり○　粘性×。

Fig.20　H－5・6号住居址

H－7号住居址

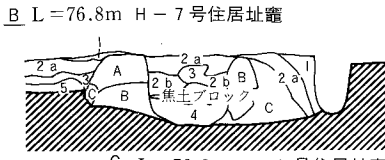


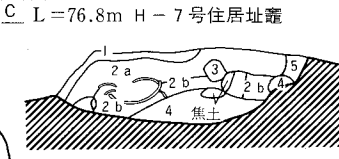


H－7号住居址
3 層 暗褐色細砂層 締まり△ 粘性△ 白軽石まばらに含む。
4 層 にぶい黄褐色橙色細砂層 締まり× 粘性× ほとんど砂層。

H－7号住居址竈
1 層 にぶい黄橙色細砂層 締まり△ 粘性× 砂層、溝からの堆積層。
2 a 層 にぶい黄褐色細砂層 締まり△ 粘性× 白色軽石少々、焼土2％。
2 b 層 にぶい黄褐色細砂層 締まり△ 粘性△ 焼土10％。
3 層 にぶい黄褐色細砂層 締まり△ 粘性○ 焼土5％。
4 層 黄褐色細砂層 締まり× 粘性△ 焼土10％、灰50％。
5 層 にぶい黄橙色細砂層 締まり× 粘性× ほとんど砂層。

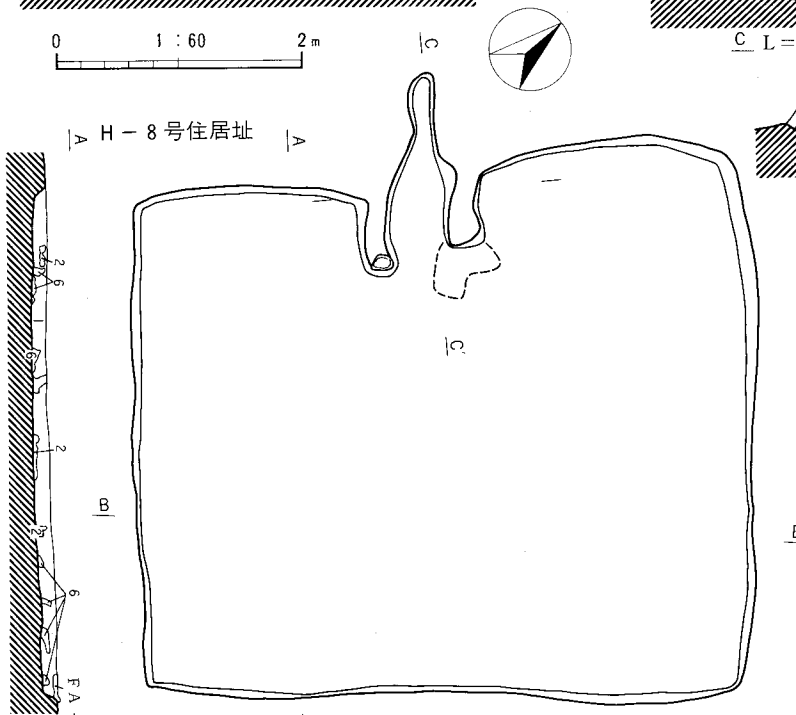
H－7号住居址竈袖
A 層 明褐色細砂層 締まり○ 粘性○ 粘土、黒色土の交じり。
B 層 黄橙色細砂層 締まり○ 粘性○ 粘土。
C 層 明黄褐色細砂層 締まり× 粘性× 砂層。

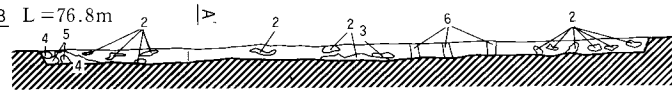


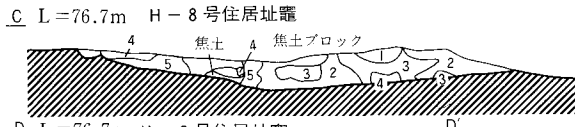


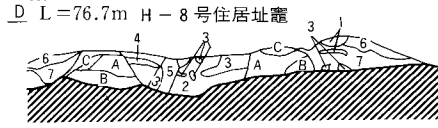
0 1：30 1m

H－8号住居址









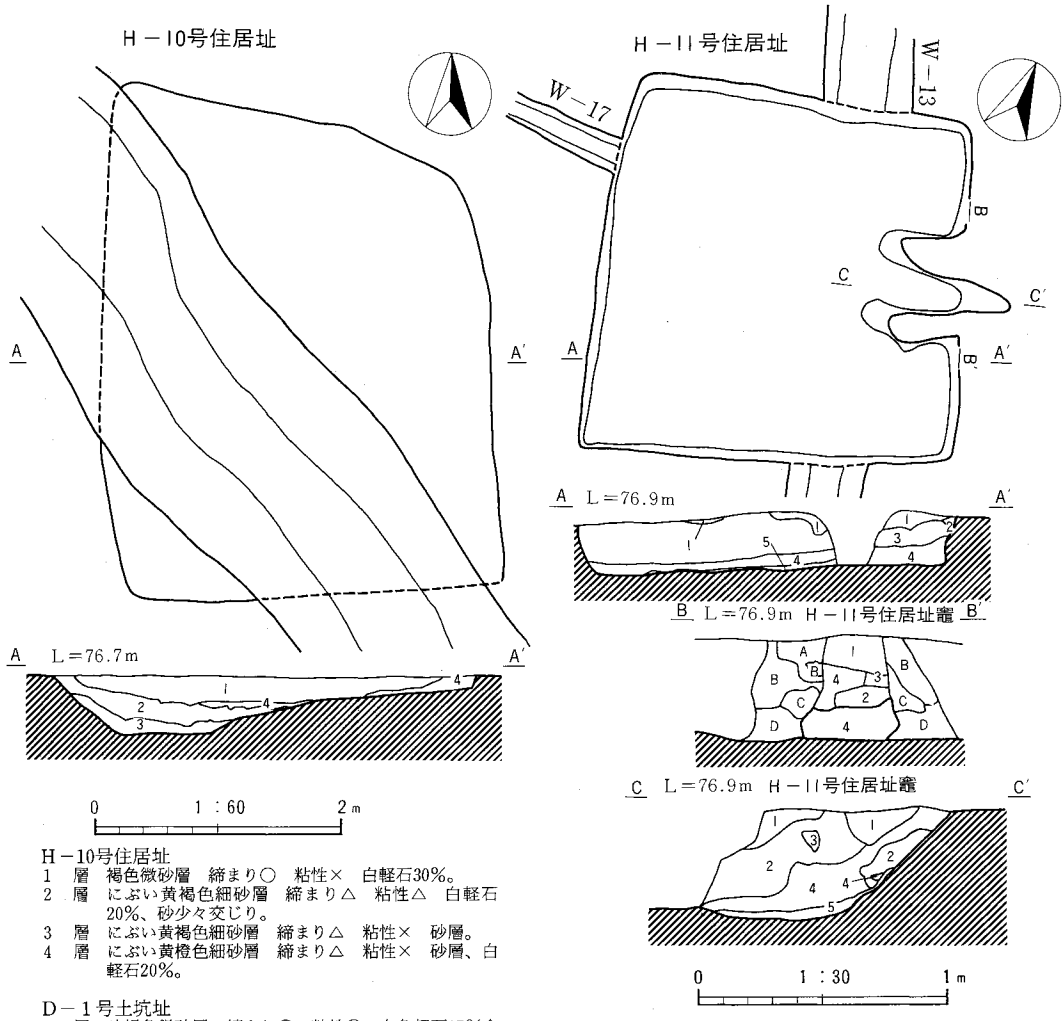
0 1：30 1m

H－8号住居址
1 層 暗褐色微砂層 締まり○ 粘性○。
2 層 にぶい黄褐色微砂層 締まり○ 粘性○。
3 層 褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 焼土30～40％。
4 層 にぶい黄褐色細砂層 締まり○ 粘性×。
5 層 にぶい黄褐色微砂層 締まり× 粘性×。
6 層 にぶい黄褐色細砂層 締まり× 粘性× 噴砂。

H－8号住居址竈
1 層 明黄褐色砂層 締まり○ 粘性○ 粘土。
2 層 黒褐色微砂層 締まり△ 粘性△ 焼土5％、炭10％。
3 層 明赤褐色微砂層 締まり△ 粘性○ 焼土70％、炭10％。
4 層 にぶい黄褐色微砂層 締まり△ 粘性△ 炭5％、灰80％。
5 層 暗褐色微砂層 締まり△ 粘性○ 焼土20％、黒土80％。
6 層 暗褐色微砂層 締まり△ 粘性○。
7 層 褐色微砂層 締まり△ 粘性○ 焼土粒、粘土粒5％、黒土層。
8 層 暗褐色微砂層 締まり× 粘性○。

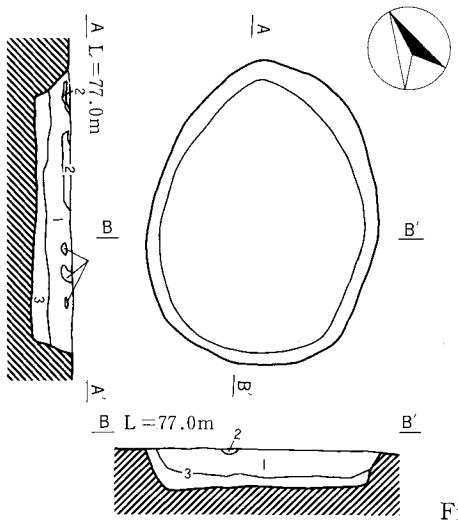
H－8号住居址竈袖
A 層 明黄褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 焼土ブロック10％含む。
B 層 暗褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 黒色土。
C 層 暗褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 粘土ブロック15～20％。

Fig.21 H－7・8号住居址



H－10号住居址
1 層 褐色微砂層 締まり○ 粘性× 白軽石30%。
2 層 にぶい黄褐色細砂層 締まり△ 粘性△ 白軽石20%、砂少々交じり。
3 層 にぶい黄褐色細砂層 締まり△ 粘性× 砂層。
4 層 にぶい黄橙色細砂層 締まり△ 粘性× 砂層、白軽石20%。

D－1号土坑址
1 層 暗褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 白色軽石15%含む。
2 層 褐灰色微砂層 締まり× 粘性○ 灰、炭の交じり。
3 層 黒褐色微砂層 締まり△ 粘性○ As-C30～40%含む。

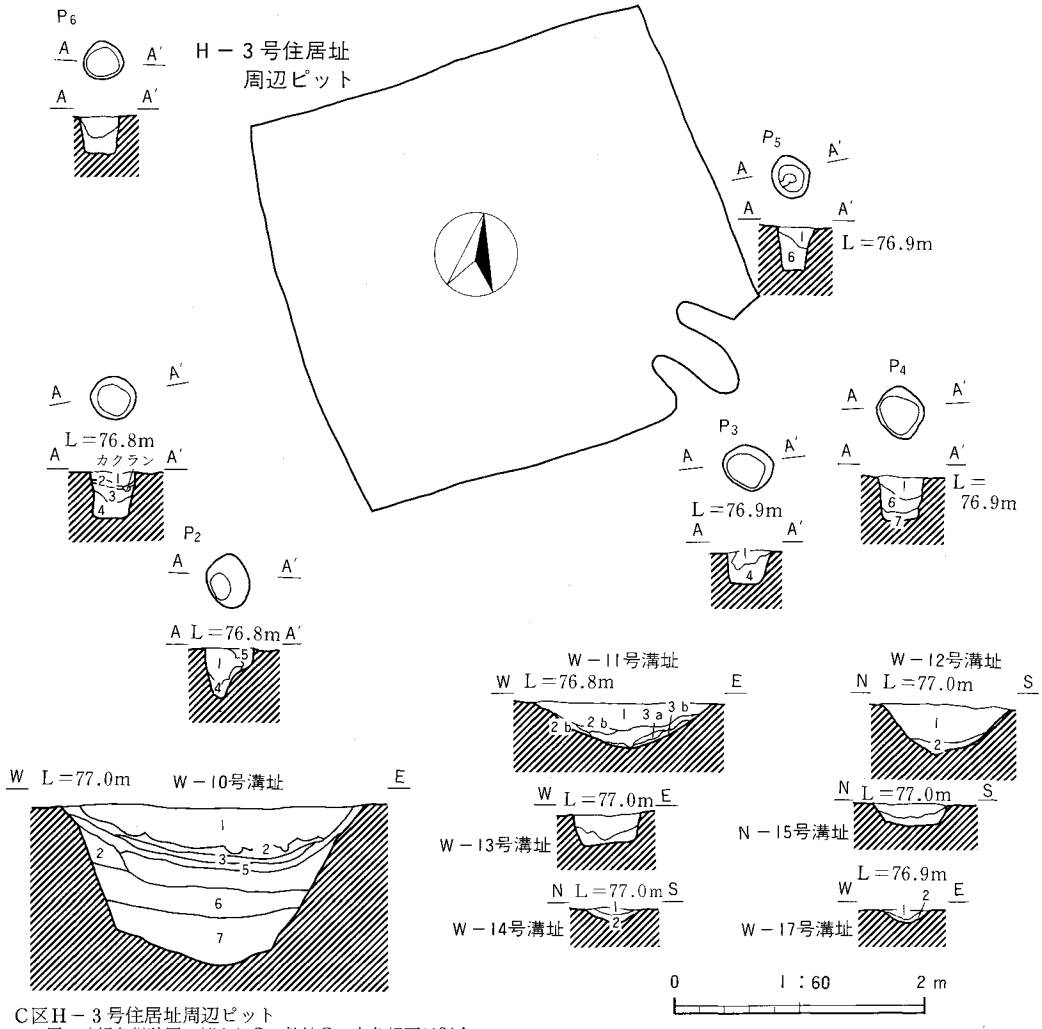


H－11号住居址
1 層 暗褐色細砂層 締まり△ 粘性△ 焼土5%、Hr-FA5%。
2 層 褐色細砂層 締まり△ 粘性△ 砂層に近い、Hr-FA1%混入。
3 層 暗褐色砂層 締まり× 粘性△ 砂層に近い。
4 層 焼土、炭化ブロック。
5・6層 黒褐微砂層 粘性○。

H－11号住居址竈
1 層 褐灰色細砂層 締まり△ 粘性△ 焼土粒5%。
2 層 にぶい赤褐色細砂層 締まり△ 粘性△ 粘土ブロック15%、焼土極少。
3 層 灰褐色細砂層 締まり× 粘性× 砂層。
4 層 赤褐色細砂層 締まり△ 粘性△ 焼土ブロック。
5 層 赤褐色微砂層 締まり△ 粘性○ 粘土層。
6 層 黒褐色微砂層 締まり× 粘性○ 灰、炭の交じり。

H－11号住居址竈袖
A 層 にぶい黄褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 黒色土、粘土粒15～20%含む。
B 層 明黄褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 粘土。
C 層 明赤褐色微砂層 締まり○ 粘性○ 粘土、焼土の交じり。
D 層 にぶい黄橙色微砂層 締まり○ 粘性○ 粘土、砂の交じり。

Fig.22 H－10・11号住居址



C区H－3号住居址周辺ピット
1　層　暗褐色微砂層　締まり○　粘性○　白色軽石10%含む。
2　層　砂層。
3　層　褐灰色微砂層　締まり×　粘性○　炭化層に粘土の層を含む。
4　層　褐色微砂層　締まり×　粘性○　粘土粒5%含む。
5　層　にぶい黄橙色細砂層　締まり×　粘性×　砂層。
6　層　明黄褐色細砂層　締まり×　粘性×　砂層中心に黒色土5%含む。
7　層　暗褐色微砂層　締まり×　粘性○　白色軽石1%含む。
8　層　にぶい黄褐色細砂層　締まり×　粘性×　砂層。
9　層　褐色微砂層　締まり△　粘性○　炭化物、白色軽石1%含む。

W－10号溝址
1　層　褐色細砂層　締まり○　粘性△　Hr-FA30%含む。
2　層　にぶい黄褐色細砂層　締まり○　粘性○　Hr-FA 5%含む。
3　層　褐色細砂層　締まり△　粘性△　Hr-FA 1%含む。
4　層　黄橙色粗砂層　締まり△　粘性△　Hr-FAの純層。
5　層　黒褐色細砂層　締まり△　粘性○　少々の砂を含む。
6　層　暗褐色細砂層　締まり×　粘性×　砂層。
7　層　褐色粗砂層　締まり×　粘性×　砂、砂利石が多量。

W－11号溝址（H－4号住居址）
1　層　褐色微砂層　締まり○　粘性△　Hr-FA 2～3%含む。
2　層　にぶい黄橙色細砂層　締まり○　粘性×　砂層。
3　層　にぶい黄橙色微砂層　締まり○　粘性×。
4　層　褐色微砂層　締まり○　粘性○。

W－11号溝址
1　層　暗褐色微砂層　締まり○　粘性×　Hr-FA 5%含む。
2a層　にぶい黄褐色微砂層　締まり○　粘性△　Hr-FA 2%含む。
2b層　黄褐色微砂層　締まり△　粘性×　Hr-FA 1%含む。
3a層　褐色細砂層　締まり×　粘性×　ほとんど砂層。
3b層　にぶい黄橙色細砂層　締まり△　粘性×　ほとんど砂層。

W－12号溝址
1　層　褐色微砂層　締まり○　粘性×。
2　層　にぶい黄褐色細砂層　締まり△　粘性×。

W－13号溝址
1　層　暗褐色微砂層　締まり○　粘性○　白色軽石10%含む。
2　層　暗褐色微砂層　締まり△　粘性○。
3　層　黒褐色微砂層　締まり○　粘性○　白色軽石10%含む。
4　層　黄橙色細砂層　締まり○　粘性×。
5　層　暗褐色微砂層　締まり△　粘性○。

W－13号溝址
1　層　褐色微砂層　締まり△　粘性○。
2　層　にぶい黄褐色細砂層　締まり×　粘性×。

W－14号・15号溝址
1　層　褐色微砂層　締まり○　粘性○　黒色土。
2　層　にぶい黄褐色微砂層　締まり○　粘性○　黒色土。

W－17号溝址
1　層　褐色微砂層　締まり△　粘性○。
2　層　灰黄褐色微砂層　締まり△　粘性○。

Fig.23　H－3号住居址周辺ピット・W－10～17号溝址

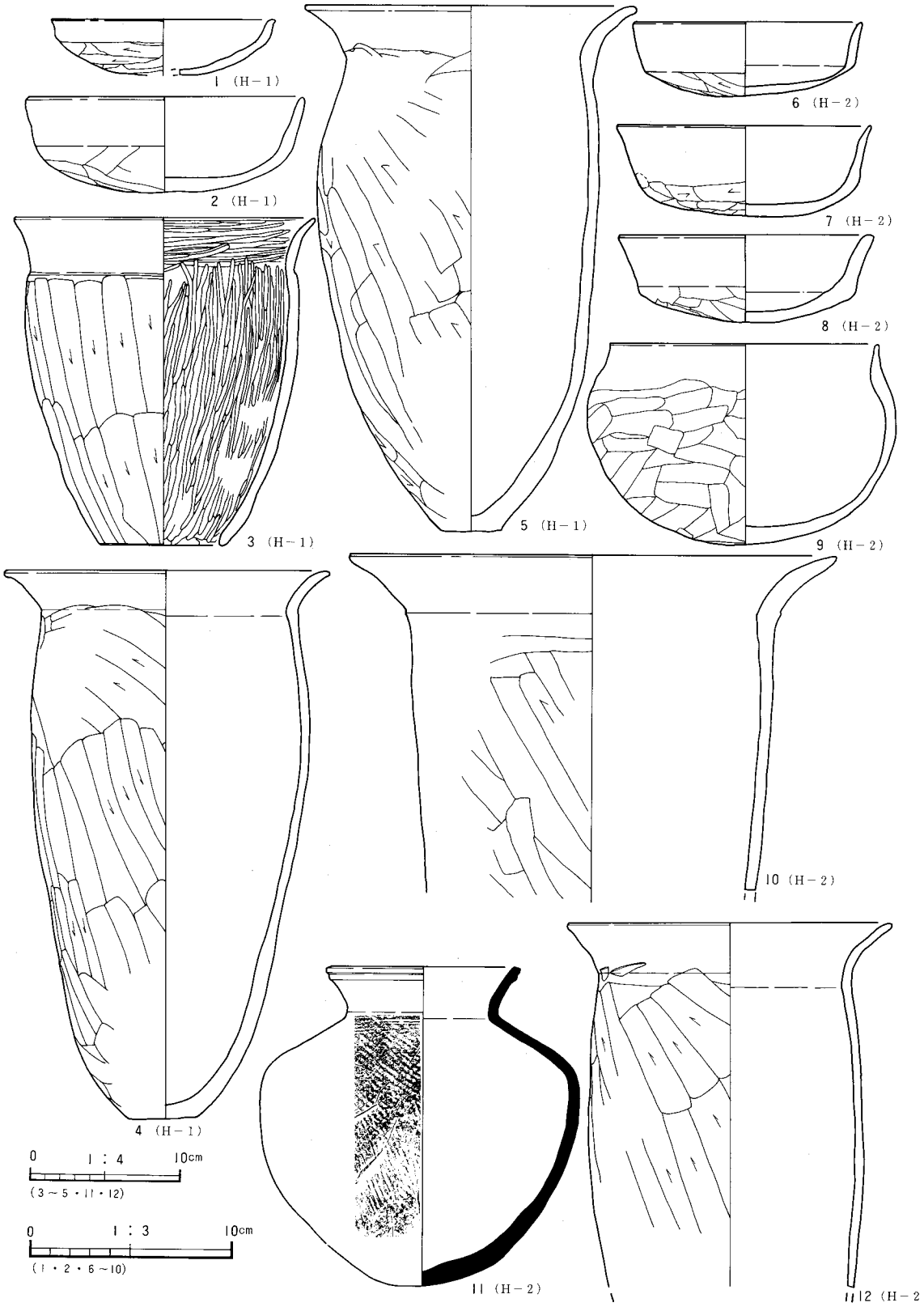


Fig.24 H１～２号住居址出土の土器(1)

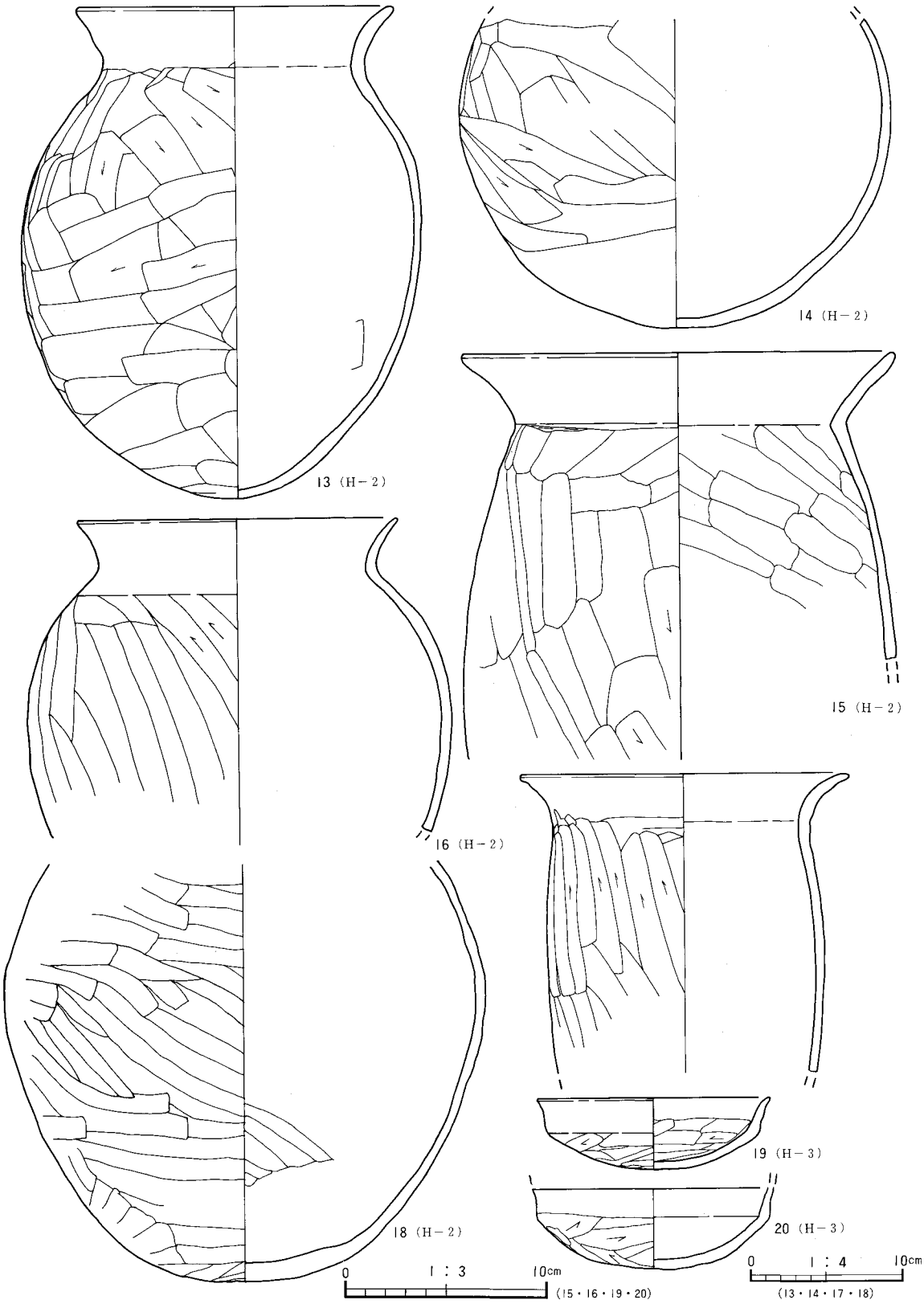


Fig.25　H－2・3号住居址出土の土器(2)

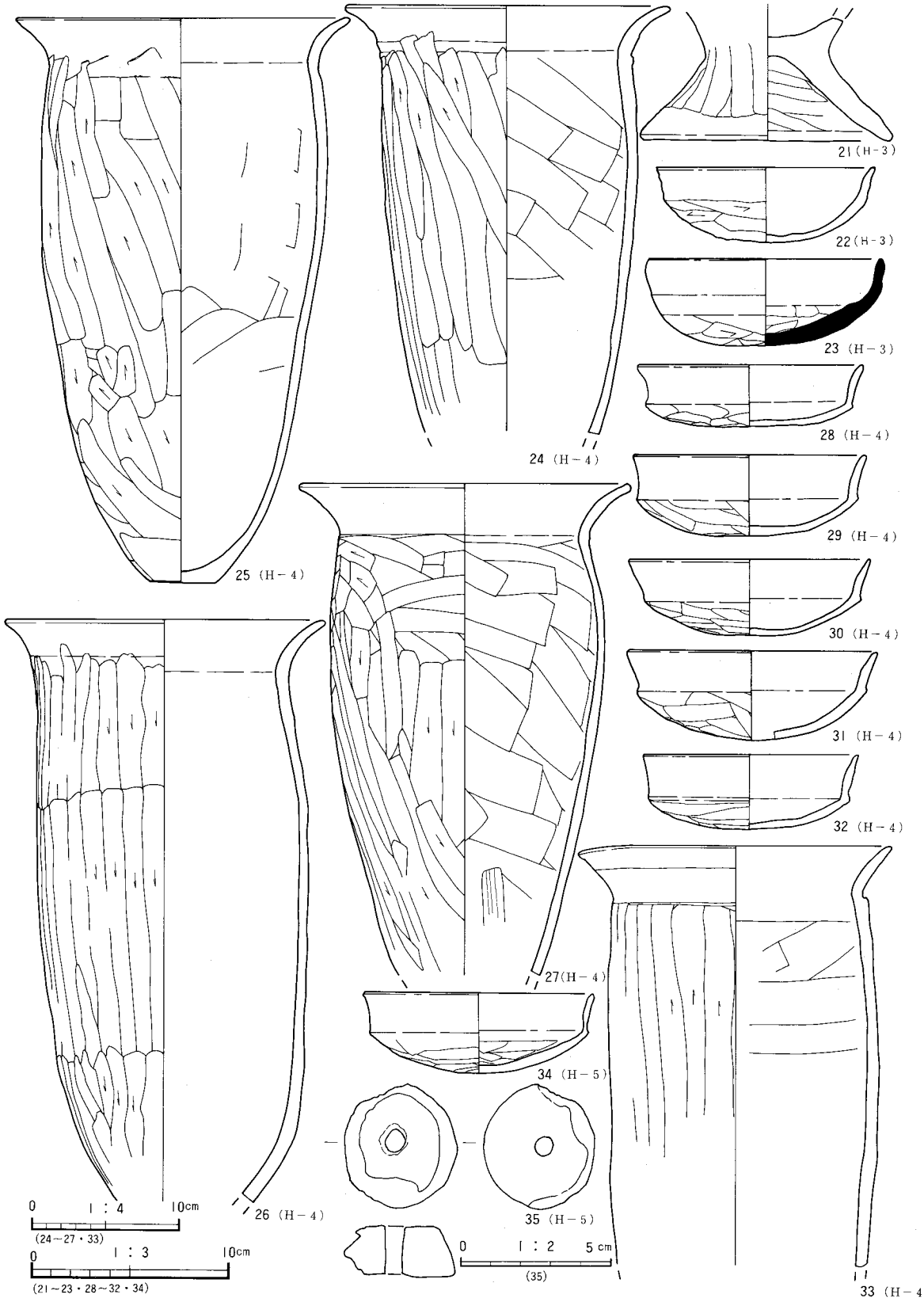


Fig.26　H－4号住居址出土の土器(3)

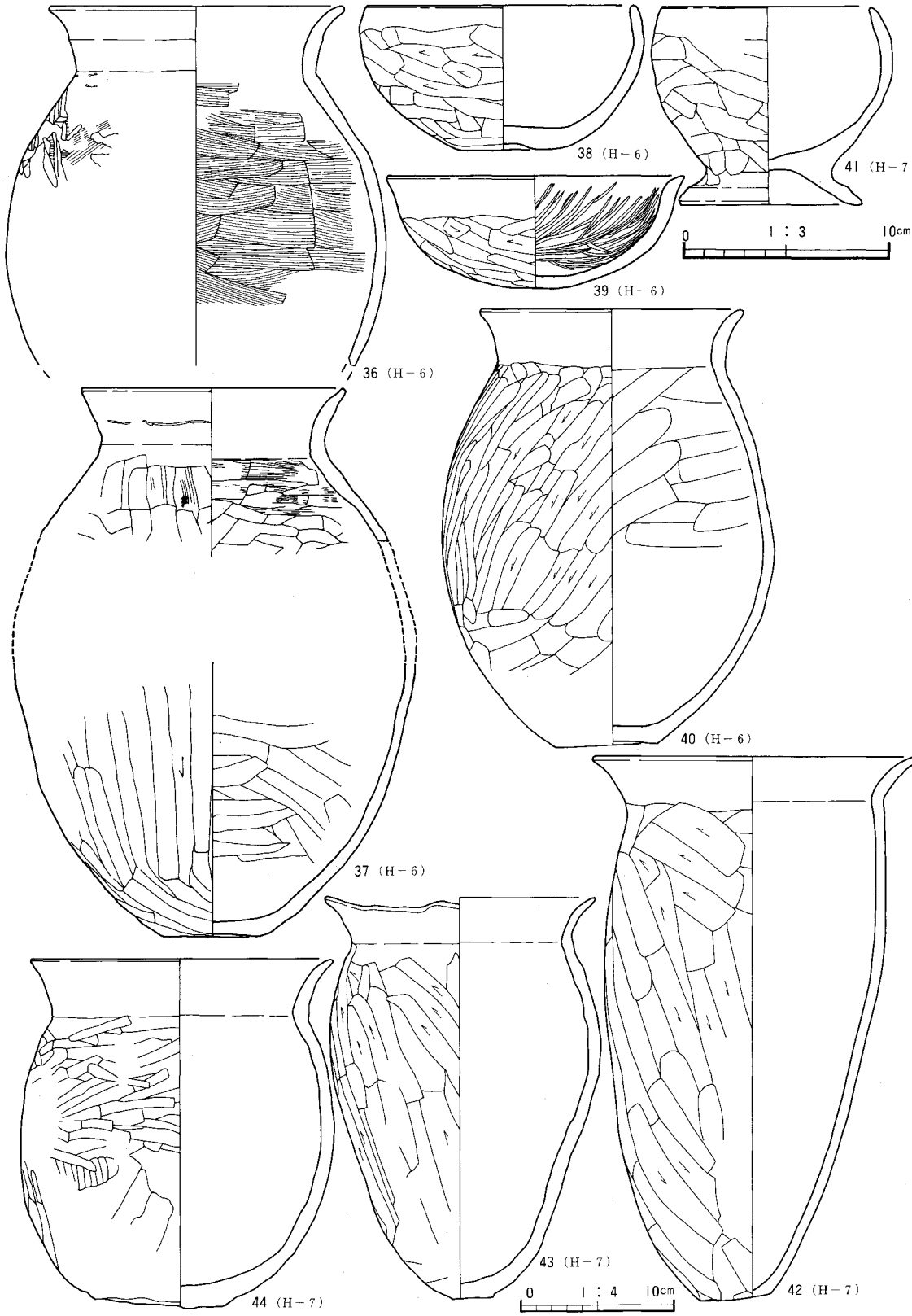


Fig.27　H－6・7号住居址出土の土器(4)

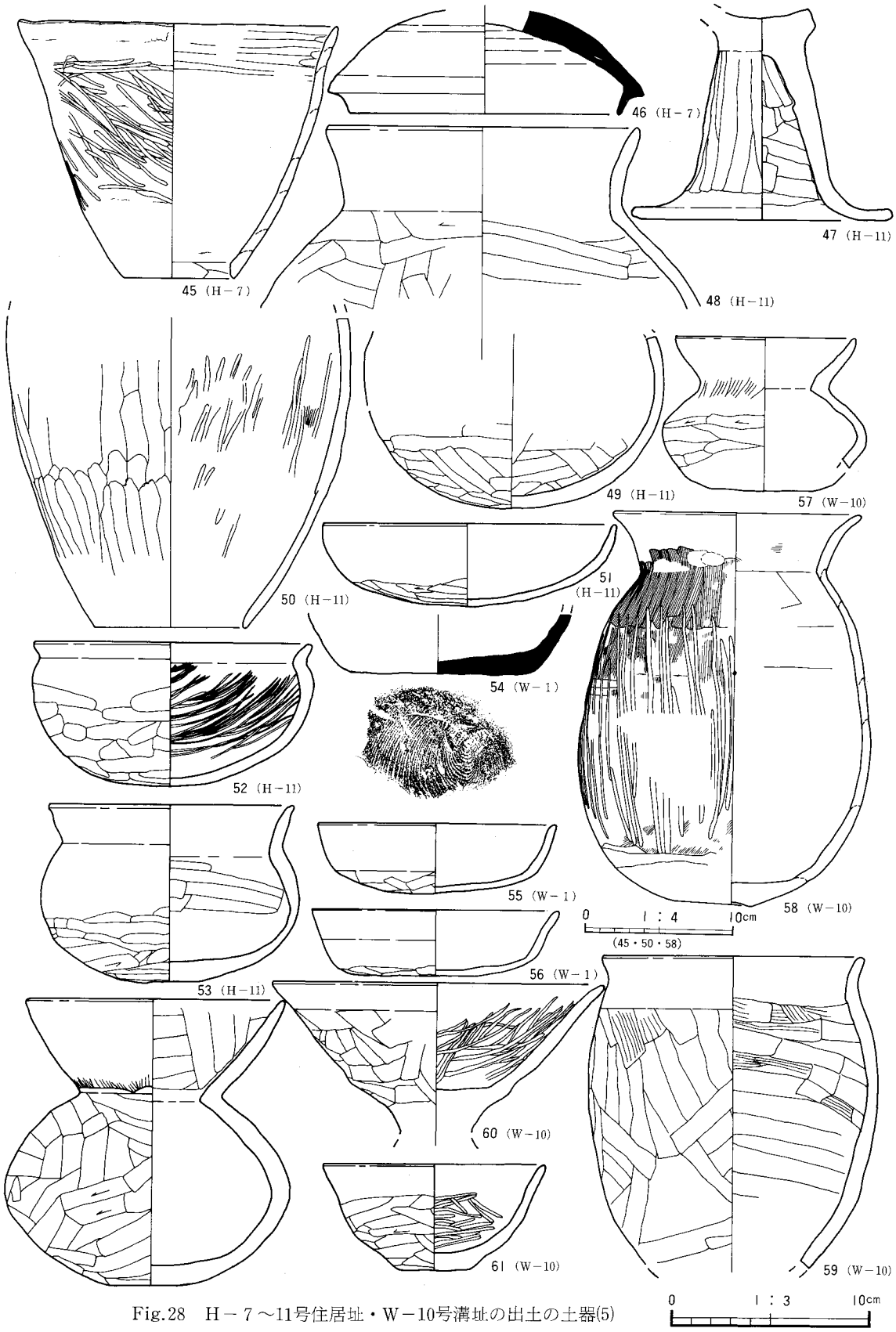


Fig.28　H－7～11号住居址・W－10号溝址の出土の土器(5)

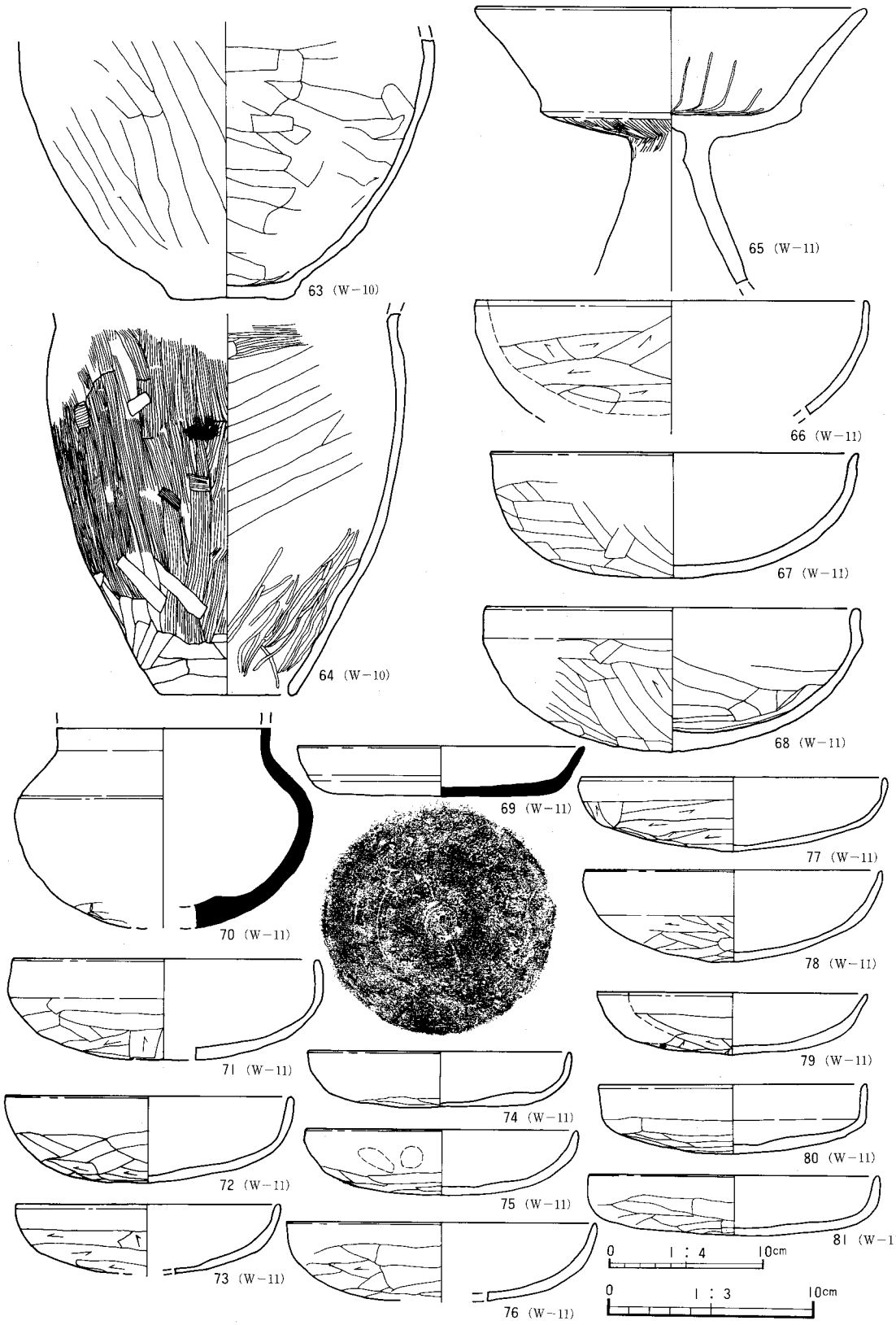


Fig.29　W−10・11号溝址出土の土器(6)

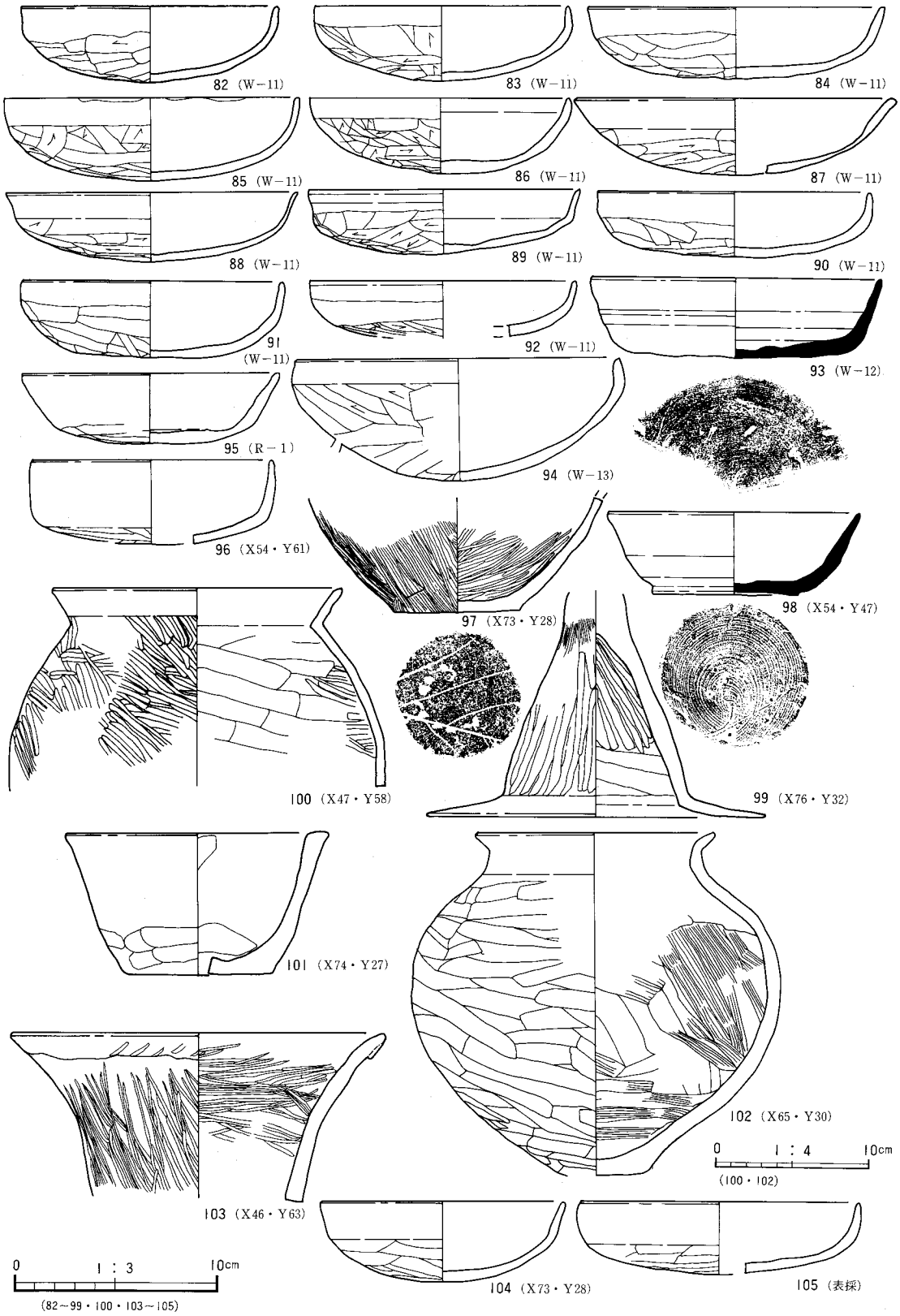


Fig.30　W−11〜13号溝址ほか出土の土器(7)

写 真 図 版

1. A・B区全景(東から)

2. A・B区全景(南東から)

1. A・B区全景(南から)

2. A・B区全景(北西から)

1．W－1号溝址水口　X59・Y59（北東から）

2．W－1号溝址排水口（南西から）

3．W－1号溝址　X58・Y54（北から）

4．W－1号溝址とR－1号川址合流地点（北西から）

5．R－1川址全景（北西から）

6．B区水田址　X62・Y50（南から）

7．B区水田址水口（南西から）

8．作業風景

1．B区水田址　X63・Y52（東から）

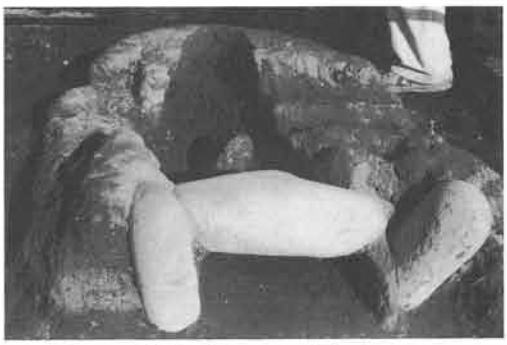
2．B区水田址　X60・Y58（北から）

3．B区水田址（南東から）

4．B区水田址全景（南東から）

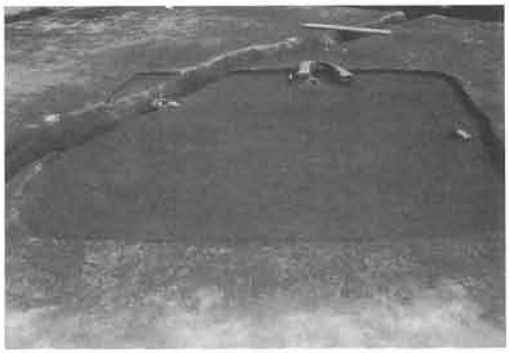
5．A・B区全景（上空から）

1. H－1号住居址（西から）



2. H－1号住居址カマド（西から）

3. H－2号住居址出土遺物（東から）



4. H－2号住居址（西から）

5.H－2号住居址カマド（西から）

6.H－3号住居址（北西から）

7. H－3号住居址カマド（北西から）

8. H－5号住居址（西から）

1. H－4号住居址（西から）

2. H－4号住居址カマド（北西から）

3. H－4号住居址カマド（西から）

4. H－4号住居址カマド（北から）

5. H－6号住居址（南西から）

6. H－6号住居址カマド（西から）

7. H－6号住居址出土遺物（南西から）

8. H－7号住居址カマド内出土遺物（西から）

1. H－7号住居址（北西から）

2. H－7号住居址カマド（西から）

3. H－8号住居址カマド（南東から）

4. H－8号住居址カマド（南東から）

5. H－10号住居址（南から）

6. H－11号住居址（西から）

7. H－11号住居址カマド（西から）

8. H－11号住居址出土遺物（南東から）

1．W－10号溝址出土遺物（北から）

2．W－10号溝址（北から）

3．W－10号溝址（南から）

4．W－11号溝址（北から）

5．W－12.16.17号溝址（東から）

6．C区全景（北から）

7．A・B区トレンチ風景（東から）

8．調査を終えて

1
(H－1)

2
(H－1)

3
(H－1)

4
(H－1)

5
(H－1)

6
(H－2)

7
(H－2)

8
(H－2)

9
(H－2)

10
(H－2)

11
(H－2)

12
(H－2)

13
(H－2)

H－1～2号住居址出土の土器

14
(H－2)

15
(H－2)

16
(H－2)

17
(H－2)

18
(H－2)

19
(H－3)

20
(H－3)

21
(H－3)

22
(H－3)

23
(H－3)

24
(H－4)

25
(H－4)

26
(H－4)

H－2～4号住居址出土の土器

27
(H－4)

28
(H－4)

30
(H－4)

29
(H－4)

31
(H－4)

32
(H－4)

34
(H－5)

36
(H－6)

35
(H－5)

33
(H－4)

38
(H－6)

39
(H－6)

37
(H－6)

40
(H－6)

41
(H－7)

H－4～7号住居址出土の土器

42
(H－7)

43
(H－7)

44
(H－7)

45
(H－7)

47
(H－11)

48
(H－11)

46
(H－7)

50
(H－11)

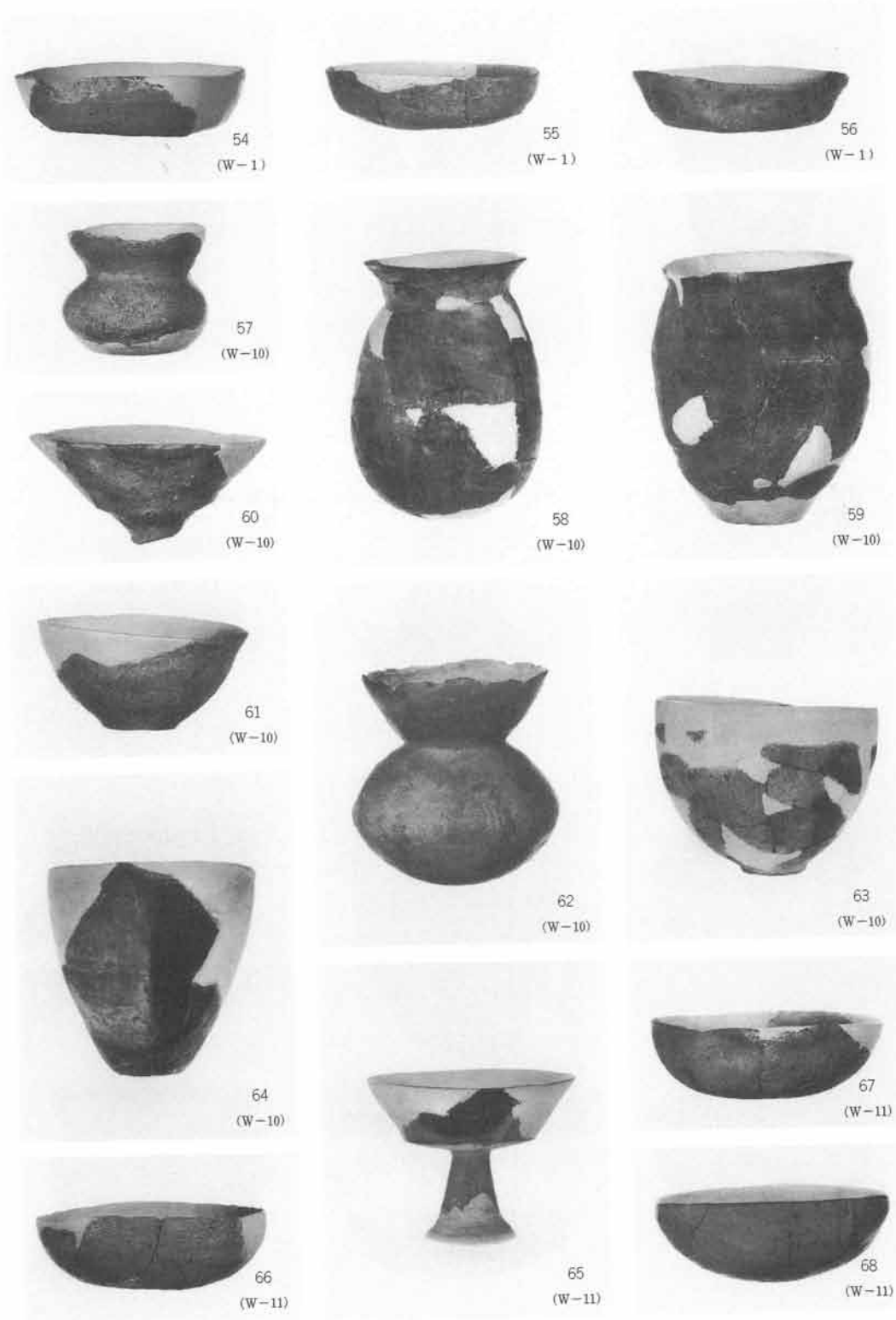
52
(H－11)

49
(H－11)

51
(H－11)

53
(H－11)

H－7～11号住居址出土の土器



W－11号溝址出土の土器

69
(W−11)

70
(W−11)

71
(W−11)

72
(W−11)

73
(W−11)

74
(W−11)

75
(W−11)

76
(W−11)

77
(W−11)

78
(W−11)

79
(W−11)

80
(W−11)

81
(W−11)

82
(W−11)

83
(W−11)

84
(W−11)

85
(W−11)

86
(W−11)

87
(W−11)

88
(W−11)

W−11号溝址出土の土器

89
(W−11)

90
(W−11)

91
(W−11)

92
(W−11)

93
(W−12)

94
(W−13)

95
(R−1)

96
X54・Y61

97
X73・Y28

98
X54・Y47

101
X74・Y27

99
X76・Y32

100
X47・Y58

102
X65・Y30

103
X46・Y63

104
X73・Y28

105
表 採

W−11〜13号溝址・その他出土の土器

抄　　録

フリガナ	ナカハライセキグンヨン
書名	中原遺跡群 Ⅳ
副書名	上増田工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	関口 孝　　新井真典
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371　群馬県前橋市上泉町664－4
発行年月日	西暦1995年3月24日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ナカハライセキグンヨン 中原遺跡群Ⅳ	マエバシシカミマスダマチ 前橋市上増田町	10201	6 F 3	36°21′21″	139°09′10″	19940510 ～ 19941108	20,000m²	上増田工業団地造成事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物
中原遺跡群Ⅳ	集落跡	古墳時代	住居址　10軒	土師器・須恵器
	水田跡	平安時代	水田址 161面	

中　原　遺　跡　群　Ⅳ

1995年3月20日　印　　刷
1995年3月24日　発　　行

編集・発行　　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町　664－4
TEL. 0272－31－9531

印　　刷　　上毎印刷工業株式会社